

新たなステージに対応した防災気象情報の改善 ～平成29年度の改善事項とその利活用～

[概要]

交通政策審議会気象分科会提言「[新たなステージ]に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方」を踏まえて平成29年度に実施予定の防災気象情報の改善事項（危険度を色分けした時系列の提供、警報級の可能性の提供、災害発生の危険度の高まりを評価するメッシュ情報の技術を活用した大雨警報・洪水警報並びに大雨特別警報の改善）とその利活用について具体的な事例を示しながら解説する。

気象庁予報部予報課気象防災推進室

高木 康伸

平成29年度出水期に実施予定の防災気象情報の改善の概要

防災気象情報の改善（平成29年度出水期予定）

基本的方向性

- 社会に大きな影響を与える現象について、可能性が高くなるとも発生のおそれを積極的に伝えていく。
- 危険度やその切迫度を認識しやすくなるよう、分かりやすく情報を提供していく。

交通政策審議会気象分科会提言「新たなステージ」に対応した防災気象情報と観測・予測技術のあり方（平成27年7月29日）より

改善Ⅰ 危険度を色分けした時系列

- 今後予測される雨量等や危険度の推移を時系列で提供
- 危険度を色分け

【現在】
注意報・警報
(文章形式)

【改善策】

平成××年×月×日11時××分××気象台発表
××市 【発表】大雨(土砂災害、浸水害)、洪水警報
高潮注意報
【継続】暴風、波浪警報、雷注意報

	今日					明日			
	9時	12時	15時	18時	21時	00時	03時	06時	09時
雨量(mm)	10	30	50	80	50	30	10	0	0
大雨 (浸水害) (土砂災害)									
洪水									
風 陸上(m/s)	15	20	20	25	20	20	15	12	12
海上(m/s)	20	25	25	30	25	25	20	15	15
波浪(m)	4	6	6	8	6	6	4	4	3
高潮(m)	0.8	0.8	1.3	1.8	1.8	0.6	0.6	0.8	0.8

改善Ⅱ 「警報級の可能性」の提供

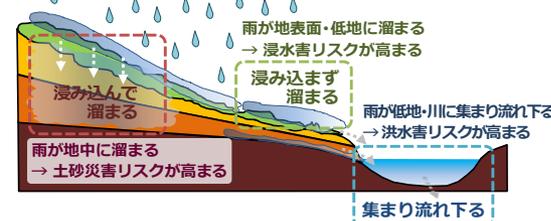
- 夜間の避難等の対応を支援する観点から、可能性が高くなっても、「明朝までに警報級の現象になる可能性」を夕方までに発表
- 台風等対応のタイムライン支援の観点から、数日先までの警報級の現象になる可能性を提供

日付		今朝まで	明日	明後日	(金)	(土)	(日)
警報級の可能性	雨	中	—	—	中	高	—
	風	中	—	—	高	高	—

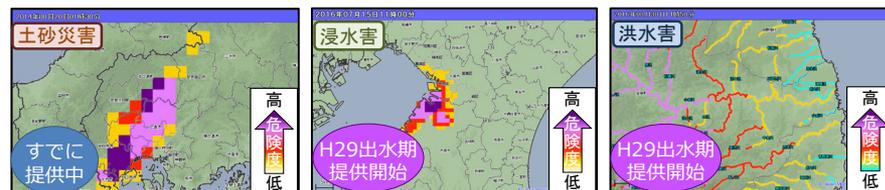
改善Ⅲ メッシュ情報の充実・利活用促進

- メッシュ情報の利活用促進
- 災害発生の危険度の高まりを評価するメッシュ情報の技術の開発（表面雨量指数（仮称）・流域雨量指数）

【降雨により災害発生の危険度が高まるメカニズム】



- メッシュ情報の技術を活用した大雨・洪水警報の改善
- 大雨警報(浸水害)・洪水警報等を発表した市町村内においてどこで実際に危険度が高まっているかを確認できる危険度分布の予測（メッシュ情報）の提供



- メッシュ情報の技術を活用した大雨特別警報の発表対象区域の改善

平成 28・29 年度の防災気象情報改善に関するスケジュール

平成28年度	5月	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒判定メッシュ情報の分かりやすい表示の実施 (気象庁ホームページ) →5/24実施
	6月	<ul style="list-style-type: none"> 「危険度を色分けした時系列」及び「警報級の可能性」の試行 <ul style="list-style-type: none"> 防災情報提供システムWEBコンテンツとして試行的に表示 対応する新たな「気象警報・注意報」及び「警報級の可能性」のXML電文を、希望される機関に試行的に配信 →6/8試行的な提供開始 気象等特別警報の「注意警戒文」の文章表現の改善を実施
	9月	<ul style="list-style-type: none"> 記録的短時間大雨情報の迅速化の実施 →9/28実施
	12月	<ul style="list-style-type: none"> 竜巻注意情報の発表単位の細分化の実施 →12/15実施
平成29年度	出水期	<ul style="list-style-type: none"> 「危険度を色分けした時系列」及び「警報級の可能性」の運用開始 <ul style="list-style-type: none"> 防災情報提供システムに加え、気象庁ホームページでの表示を開始 新たな「気象警報・注意報」及び「警報級の可能性」のXML電文の運用開始 表面雨量指数(仮称)の大雨警報(浸水害)の発表基準への導入、及び「大雨警報(浸水害)の危険度分布」の提供開始 精緻化した流域雨量指数の洪水警報の発表基準への導入、及び「洪水警報の危険度分布」の提供開始 メッシュ情報(危険度分布)の技術を活用した大雨特別警報の発表対象区域の改善を開始
	3月(目途)	<ul style="list-style-type: none"> かな漢字形式等による電文の提供終了

改善 I

危険度を色分けした時系列
(気象警報等発表時)

危険度を色分けした時系列で分かりやすく提供（気象警報等発表時）

現状 気象警報・注意報には、「警報級の現象が予想される期間」、「注意報級の現象が予想される期間」、雨量や潮位の「予想値」等が記述されているが、受け手が危険度や切迫度を認識しづらい。

計画 これまで文章形式で提供してきた「警報級の現象が予想される期間」等を、危険度に応じて色分けした時系列の表形式により視覚的に把握しやすい形で提供。（平成29年度から）

現状

文章形式

平成xx年xx月xx日11時xx分 xx気象台発表

xx市 [発表] 大雨（土砂災害、浸水害）、洪水警報
高潮注意報
[継続] 暴風、波浪警報

土砂 警戒期間 13日夕方から 14日未明まで
注意期間 13日昼過ぎから 14日明け方まで

浸水 警戒期間 13日夕方から 13日夜遅くまで
注意期間 13日昼過ぎから 14日未明まで
雨のピークは13日夜のはじめ頃
1時間最大雨量 8.0ミリ

洪水 警戒期間 13日夕方から 14日未明まで
注意期間 13日昼過ぎから 14日明け方まで

風 警戒期間 13日昼過ぎから 14日未明まで
注意期間 14日昼前にかけて 以後も続く

ピークは13日夜のはじめ頃
陸上 最大風速 25メートル
海上 最大風速 30メートル

波 警戒期間 13日昼過ぎから 14日未明まで
注意期間 14日昼前にかけて 以後も続く
ピークは13日夜のはじめ頃 波高 8メートル

高潮 警戒期間 13日18時頃から 13日24時頃まで
注意期間 13日15時頃から 13日24時頃まで
ピークは13日18時頃 最高潮位 1.8メートル

（警戒が必要な期間と、ピーク量・時間帯のみを記載。）

平成29年度
改善

防災情報提供システム
では平成28年度から
試行的に表示

改善後

時系列の表形式

平成xx年xx月xx日11時xx分 xx気象台発表

xx市 [発表] 大雨（土砂災害、浸水害）、洪水警報
高潮注意報
[継続] 暴風、波浪警報

		今日					明日			
		9-12	12-15	15-18	18-21	21-0	0-3	3-6	6-9	9-12
大雨	雨量(mm)	10	30	50	80	50	30			
	(浸水害)									
	(土砂災害)									
洪水										
風	陸上(m/s)	15	20	20	25	20	20	15	12	12
	海上(m/s)	20	25	25	30	25	25	20	15	15
波浪(m)		4	6	6	8	6	6	4	4	3
高潮(m)		0.6	0.6	1.3	1.8	1.8				

今後の危険度の高まりを即座に把握できる！

※ 気象警報は「警報級の現象が予想される期間」の最大6時間前に発表しています。

「警報に切り替える可能性に言及した注意報」を
通常の注意報と区別できる形で提供

現 状 発表されている注意報が、今後、「警報に切り替わる可能性」がある旨を、文章で記述。

計 画 色分けした時系列等によって、「警報に切り替える可能性に言及した注意報」は、危険度やその切迫度が通常の注意報とは異なることが視覚的に認識できる形で提供。(平成29年度から)

現 状

平成26年 12月15日 16時25分
〇〇市 [発表] 高潮注意報
[継続] 雷注意報
16日未明までに
高潮警報に切り替える可能性が高い
高潮 警戒期間 16日0時頃から
16日12時頃まで
注意期間 15日21時頃から
16日15時頃まで
ピークは16日7時頃
最高潮位 標高 **3.5メートル**の高さ
雷 注意期間 15日夜のはじめ頃から
16日昼前まで
付加事項 突風 ひょう

平成29年度
改善
防災情報提供システム
では平成28年度から
試行的に表示

改善後

平成26年 12月15日 16時25分
〇〇市 [発表] 高潮注意報
[継続] 雷注意報
16日未明までに
高潮警報に切り替える可能性が高い

種別	今後の推移 (■警報級 ■注意報級)										備考・ 関連する現象
	15日					16日					
	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18		
高潮	潮位 (m)	0.3	0.6	0.8	1.4	2.6	3.5	2.2	1.0		ピークは 16日7時頃
雷											突風、 ひょう

「警報に切り替える可能性に
言及した注意報」が、
通常の注意報と視覚的に
区別できる！

※ 6時間以上先に「警報級の現象」が予想されているときは「警報に切り替える可能性に言及した注意報」を発表してします。

「危険度を色分けした時系列」の利活用 ～ 高潮災害に関する利活用 ～

高潮警報等の「予想最高潮位」の活用例

平成27年10月7日 21時19分 釧路地方気象台発表
根室市

【発表】 暴風, 波浪警報 大雨, 雷, 濃霧注意報
【継続】 高潮注意報

8日昼前までに大雨警報（浸水害）に切り替える可能性が高い
8日昼前までに高潮警報に切り替える可能性が高い

根室市		今後の推移 (■警報級 □注意報級)									備考・ 関連する現象
発表中の 警報・注意報等の種別		7日	8日								
		21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	
大雨	(浸水害) 1時間最大雨量(ミリ)	10	10	30	30	50	50	50	30		浸水注意
	暴風	風向	陸上	15	18	20	22	22	25	18	15
風速 (メートル)		海上	20	22	25	28	28	30	22	20	以後も注意報級
波浪	波高(メートル)	5	5	8	8	8	9	8	7	7	以後も警報級
高潮	潮位(メートル)	0.7	0.7	0.8	1.0	1.8	2.0	1.8	1.2	1.2	以後も警報級 ピークは8日15時頃
雷											突風、ひょう
濃霧											視程200メートル以下

予想最高潮位 (高潮の高さ)
標高 2.0メートル

- 高潮警報等の予想最高潮位を活用した避難のエリアの考え方が**内閣府の「ガイドライン」**に追記。（平成27年度）

◆ 内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」②P35～38

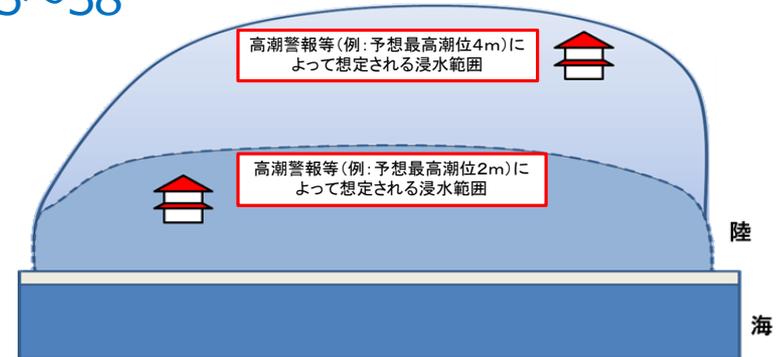
- 避難勧告等の発令対象区域

避難勧告等の発令対象区域は浸水のおそれのある区域とし、水位周知海岸が指定されている場合においてはその指定と併せて公表される高潮浸水想定区域のうち、高潮警報等で発表される予想最高潮位に応じて想定される浸水区域を基本とする。

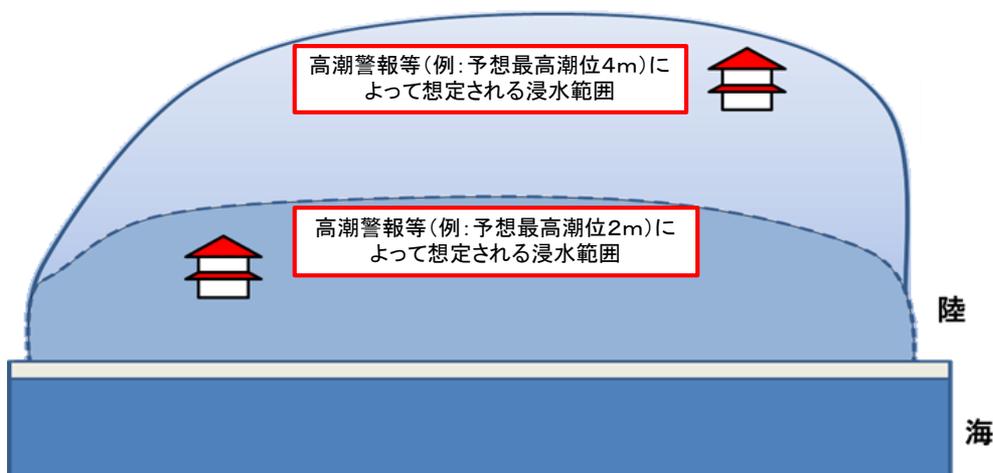
高潮浸水想定区域は想定し得る最大規模の高潮を対象としたものであるため、中小規模の高潮を対象としたものではなく、高潮警報等の予想最高潮位に応じて発令対象範囲をあらかじめ定めておく必要がある。

- 判断基準設定の考え方

あらかじめ、気象台、海岸管理者等に相談し、当該地域において、高潮警報の基準潮位（危険潮位等）を上回る場合に、潮位に応じた想定浸水範囲を事前に確認し、想定最大までの高潮高と避難対象地域の範囲を段階的に定めておく。これにより、高潮警報等に記載される予想最高潮位を基に、避難勧告等の対象範囲を判断することができる。



- 高潮警報等の予想最高潮位に応じた想定浸水範囲に絞り込んで避難勧告等を発令する考え方が、「**防災基本計画**」に追記。（平成27年度）



「防災基本計画」(P138)

市町村は、高潮災害に対する住民の警戒避難体制として、高潮警報等が発表された場合に直ちに避難勧告等を発令することを基本とした具体的な避難勧告等の発令基準を設定するものとする。また、**潮位に応じた想定浸水範囲**を事前に確認し、想定最大までの高潮高と避難対象地域の範囲を段階的に定めておくなど、**高潮警報等の予想最高潮位に応じて想定される浸水区域に避難勧告等を発令**できるよう、発令範囲をあらかじめ具体的に設定するとともに、必要に応じ見直すよう努めるものとする。国〔国土交通省〕は、これらの基準及び範囲の設定及び見直しについて、必要な助言等を行うものとする。

高潮警報等の「予想最高潮位」の活用例

「気象業務はいま2016」(P60)

根室市では、避難勧告を発令中の沿岸地域のうち、特に危険な、高潮警報の予想最高潮位に相当する標高2メートル程度の低地 (約180世帯) を対象とした避難指示が発令され、特に強く避難が呼びかけられました。このように、根室市では、平成26年12月17日の高潮災害の経験も踏まえ、気象台と連携して、特に危険度が高まっていると判断される区域の住民に対して早めの避難行動を呼びかける等、適切な対応がとられました。

根室市		今後の推移 (■警報級 ■注意報級)									備考・ 関連する現象
発表中の 警報・注意報等の種別		7日	8日								
		21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	
大雨	(浸水害) 1時間最大雨量(ミリ)	10	10	30	30	50	50	50	30		浸水注意
	暴風	風向 風速 メートル)	陸上	15	18	20	22	22	25	18	15
海上			20	22	25	28	28	30	22	20	以後も注意報級
波浪	波高(メートル)	5	5	8	8	8	9	8	7	7	以後も警報級
高潮	潮位(メートル)	0.7	0.7	0.8	1.0	1.8	2.0	1.8	1.2	1.2	以後も警報級 ピークは8日15時頃
雷											突風、ひょう
濃霧											視程200メートル以下

予想最高潮位 (高潮の高さ)
標高 2.0メートル

- 高潮警報に切り替える可能性に言及した注意報等を活用した避難のタイミングについての考え方が内閣府の「ガイドライン」に追記。（平成27年度）

◆ 内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」②P36

○ 避難勧告等の発令を判断するための情報

- ・ 高潮注意報：高潮に対する注意を呼びかける。また、潮位が警報基準に達する可能性が高いと予想される場合には、警報基準に達する6～24時間前に予想最高潮位及びその予想時刻を明示して、高潮警報に切り替える可能性に言及する高潮注意報が発表される。
- ・ 暴風警報及び暴風特別警報：（略）

○ 判断基準設定の考え方

- ・ 高潮注意報が発表され、なおかつ警報に切り替わる可能性が高いと言及されている場合等、その後の台風等の接近に伴い避難勧告を発令する可能性がある場合に、避難準備・高齢者等避難開始を発令する。
- ・ 高潮注意報が発表されており、当該注意報において高潮警報に切り替える可能性が高い旨が言及されている場合には、暴風で避難できなくなる前に避難行動を開始する必要があるため、暴風警報等の発表にあわせて、避難勧告を発令する。

高潮災害に関する防災気象情報を活用した避難行動

時間の流れ

暴風警報等

強風注意報

(暴風警報に切り替える可能性が高いと記載)

暴風警報

(又は暴風特別警報)

高潮警報等
(予想最高潮位を明示)

高潮注意報

(高潮警報に切り替える可能性が高いと記載)

高潮警報

(又は高潮特別警報)

自治体からの
避難に関する
情報(例)

避難準備・
高齢者等避難開始

避難勧告

(暴風で避難できなくなる前に)

避難指示(緊急)

(潮位が危険潮位を超えた場合)

[生命に危険が及ぶ範囲] (避難勧告等の対象となる区域)
高潮警報等に記載された予想最高潮位に応じた浸水想定区域

高潮注意報が発表され「高潮警報に切り替える可能性が高い」と記載されている場合には、予想最高潮位(高潮の高さ)を確認し、命を守るために建物からの立ち退き避難が必要となりそうかどうかをご検討ください。高潮災害が起こるような台風等の接近時には、潮位の上昇よりも先に暴風が吹き始め、屋外への立ち退き避難が困難となりますので、高潮警報を待つことなく、暴風警報が発表されたときに、高潮災害から命を守るために必要な避難行動を開始していただくことが重要です。なお、暴風警報は、暴風が吹き始める数時間前に、暴風が予想される期間を明示して発表しています。

高潮災害に関する防災気象情報を活用した避難行動

気象状況

気象庁の情報

市町村の対応

住民の行動

Point
備えは大丈夫？



台風最接近の
数日前



台風最接近の
約1日前



台風最接近の
1日～半日前



暴風域に入る
数時間前



暴風域に入る



台風最接近の
数時間前



台風最接近
高潮となる



高潮による
浸水が発生

警報級の
可能性

強風
注意報

高潮
注意報

暴風警報
又は
暴風
特別警報

高潮警報
又は
高潮
特別警報

- ・心構えを一段高める
- ・職員の連絡体制を確認
- ・今後の気象状況に注意

- ・災害準備体制
(連絡要員を配置、防災気象情報を把握)
- ・予想最高潮位に応じて
想定される浸水区域等に
避難準備・高齢者等避難開始
(発表中の注意報に、高潮警報発表の
可能性が高いと記載されている場合)
- ・災害警戒体制
(避難勧告の発令を判断できる体制)

- ・予想最高潮位に応じて
想定される浸水区域等に
避難勧告
(台風の暴風域に入る前に)
- ・災害対策本部設置

- ・避難指示(緊急)

気象情報やハザードマップを確認



- ・心構えを一段高める
- ・潮位に応じた浸水範囲など
危険な箇所を把握
- ・避難場所や避難ルートを確認

最新の情報を把握して、災害に備えた早めの準備を



- ・発表中の注意報に記載されている
予想最高潮位(高潮の高さ)を確認
- ・発表中の注意報に、夜間に高潮
警報発表の可能性が高いと記載
されている場合は、予想最高潮位
に応じた浸水想定区域の外へ
早めの避難

地元市町村からの避難情報に留意するとともに、最新の警報等に記載されている予想最高潮位(高潮の高さ)に応じた浸水想定区域の外へ速やかに避難



- ・高潮災害が起こるような台風等の接近時には、潮位の上昇よりも先に暴風が吹き始め、屋外への立ち退き避難が困難となりますので、高潮警報を待つことなく、暴風警報が発表されたときに、高潮災害から命を守るために必要な避難行動を開始していただくことが重要です。

Point
暴風警報が
発表された時点で
早めの行動を！



- ・この状況を待ってから避難を開始しようとするのではなく、この状況までには安全な場所への避難を完了しておく意識で行動していただくことが大変重要です。

改善Ⅱ

「警報級の可能性」の提供
(天気予報等発表時)

翌朝までの「警報級の現象になる可能性」の提供

現 状 警報級の現象となる可能性は、可能性が高い場合のみ、注意報や府県気象情報で発表している。可能性が一定以上認められても、高いとまで予想されない状況では、何も発表しない。

計 画 警報級の現象は、ひとたび起これば重大な災害のおそれがあり社会的に大きな影響を与えることから、たとえ可能性が高くない状況であっても、警報級の現象になる可能性を積極的に発表する。
(平成29年度から)

現 状

最も可能性の高い予測に基づき発表。
危険な大雨になるかどうかは分からない。

夕方発表の天気予報

〇〇県南部
△△日 17時発表
今夜はくもり。所により雨で、雷を伴い激しく降る。

平成29年度
改善

防災情報提供システム
では平成28年度から
試行的に表示

→「場合によっては危険な大雨になるおそれもある」
という状況であることは伝わらない。

改善後

大雨になる可能性について、[高]、[中]
といった2段階の確度を付して発表。

夕方発表の天気予報

〇〇県南部
△△日 17時発表
今夜はくもり。所により雨で、雷を伴い激しく降る。



今夜から翌朝にかけて、
警報級の大雨になる可能性：[中]

→「場合によっては危険な大雨になるおそれもある」
という状況を伝えることができる。

深夜などの警報発表も想定して
心構えを一段高めておく

数日先までの「警報級の現象になる可能性」の提供

現状 警報級の現象については、可能性が高い場合のみ、府県気象情報の中で数日前から警戒を呼びかけている。

計画 台風等に対するタイムラインによる防災対応を支援するため、数日先までの防災気象情報の提供の強化が必要であり、警報級の現象になる可能性を5日先まで提供。(平成29年度から)

現状

大まかな天気変化について発表。
危険な大雨になるかどうかは分からない。

夕方発表の週間天気予報

29水	30木	31金	1土	2日	3月	4火
晴時々曇	曇時々晴	曇時々雨	雨	曇	曇時々晴	曇時々晴

平成29年度
改善

防災情報提供システム
では平成28年度から
試行的に表示

→「場合によっては危険な大雨になるおそれもある」という状況であることは伝わらない。

改善後

大雨になる可能性について、**[高]**、**[中]**といった2段階の確度を付して発表。

夕方発表の週間天気予報

29水	30木	31金	1土	2日	3月	4火
晴時々曇	曇時々晴	曇時々雨	雨	曇	曇時々晴	曇時々晴



明後日から5日先までの「警報級の大雨になる可能性」
2日先 3日先 4日先 5日先
— [中] [高] —

→「場合によっては危険な大雨になるおそれもある」という状況を伝えることができる。

心構えを早めて高めて
台風情報や府県気象情報に留意

明け方から朝にかけての大雨事例における「警報級の可能性」発表例 ～ 平成28年7月9日和歌山県の大雨事例～

■ 前日朝

- 大雨前日8日05時に警報級の可能性[中]を発表。

<警報級の可能性>

和歌山県南部		7/8 05:00発表					7/7 17:00発表		
種別	大雨	8日		9日			10日	11日	12日
		夕方まで		夜～明け方	朝～夜遅く				
		6-12	12-18	18-24	0-6	6-24			
警報級の可能性		-		[中]			-	-	-



心構えを高めておく

■ 前日夕方

- 8日16時30分に「警報に切り替える可能性が高い」ことに言及した大雨注意報等を発表。

<危険度を色分けした時系列>

田辺市田辺		今後の推移(■警報級 ■注意報級)										備考・ 関連する現象
発表中の 警報・注意報等の種別		8日				9日						
		15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-18		
大雨	1時間最大雨量 (ミリ)	6	7	12	20	70	70	70	70			浸水注意
	(浸水害)											
洪水	(洪水害)											
強風	風向	陸上	7	12	12	12	13	13	13	13	12	以後も注意報級
	風速 (矢印・メートル)	海上	10	15	15	15	18	18	18	18	15	
波浪	波高(メートル)	2	3	3	3	4	4	4	4	3	以後も注意報級 うねり	
雷											以後も注意報級 竜巻	



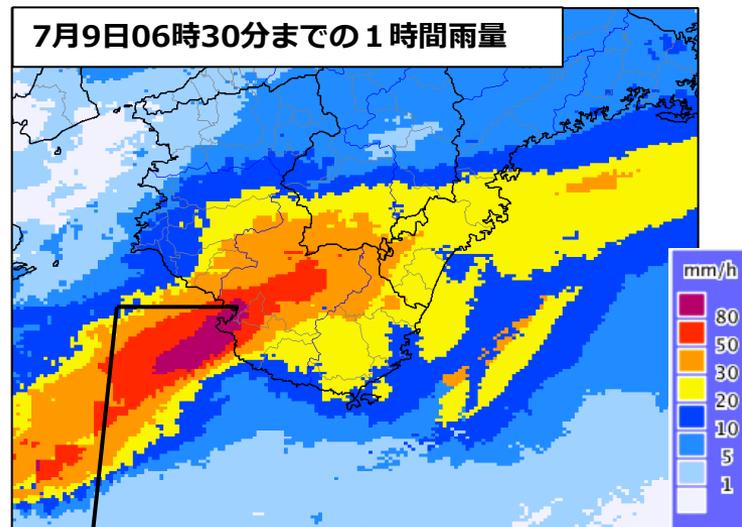
■ 当日明け方

- 9日03時20分(大雨の数時間前)に大雨警報(土砂災害、浸水害)等を発表。



■ 当日明け方～朝

- 和歌山県南部では、9日05時30分から09時00分にかけて、1時間50ミリ以上の非常に激しい雨となった。
- 同日06時50分に記録的短時間大雨情報(田辺市田辺付近で約110ミリ)を発表。
- 田辺市等で土砂災害や浸水による被害。



田辺市田辺付近 約110ミリ

翌日までの「警報級の可能性」の[高]・[中]の「適中率」と「捕捉率」（大雨）

- 翌日までの大雨の「警報級の可能性」の事例について調査したところ、
[高]、[中]が発表された場合に実際に大雨警報発表となった割合はそれぞれ**74%**、**28%**。
- 夜間～翌日早朝の大雨警報の事例について調査したところ、夕方17時の時点で
あらかじめ「警報級の可能性」の[中]以上が発表されていた割合は**71%**。

（平成28年6月～12月の全国分の事例を集計。）

翌日までの「警報級の可能性」の事例

	[高]	[中]
大雨警報 有	2261回	3425回
大雨警報 無	786回	8654回
実際に大雨警報 発表となった割合	74%	28%

夜間～翌日早朝の大雨警報の事例

[中]以上発表なし	174回
[中]以上発表あり	428回
夕方17時の時点で あらかじめ[中]以上が 発表されていた割合	71%

（平成28年6月～12月の全国分の事例を集計。）

警報級の可能性の[中]は、「警報」や「警報に切り替える可能性に言及した注意報」を発表するより前の早い段階において、可能性が高くなくとも警報発表の可能性が認められる旨を積極的にお知らせするものであり、「適中率」よりも「捕捉率」（大雨警報発表前にあらかじめ[中]以上が発表されている割合）を重視して提供することに主眼を置いた情報です。

「警報級の可能性」の[高]・[中]が実際に大雨警報発表となる割合について

○ 2日先から5日先までの大雨の「警報級の可能性」について調査したところ、
[高]、**[中]**が発表された場合に実際に大雨警報発表となった割合はそれぞれ**79%**、**48%**。

(平成28年6月～12月の全国分の事例を集計。)

警報級の可能性**[高]**が発表された事例

	2日先	3日先	4日先	5日先	計
大雨警報 有	163回	40回	0回	0回	203回
大雨警報 無	40回	15回	0回	0回	55回
実際に大雨警報 発表となった割合	80%	73%	—	—	79%

警報級の可能性**[中]**が発表された事例

	2日先	3日先	4日先	5日先	計
大雨警報 有	573回	362回	114回	36回	1085回
大雨警報 無	578回	351回	178回	52回	1159回
実際に大雨警報 発表となった割合	50%	51%	39%	41%	48%

[中]は、可能性が高くなるとも積極的に提供

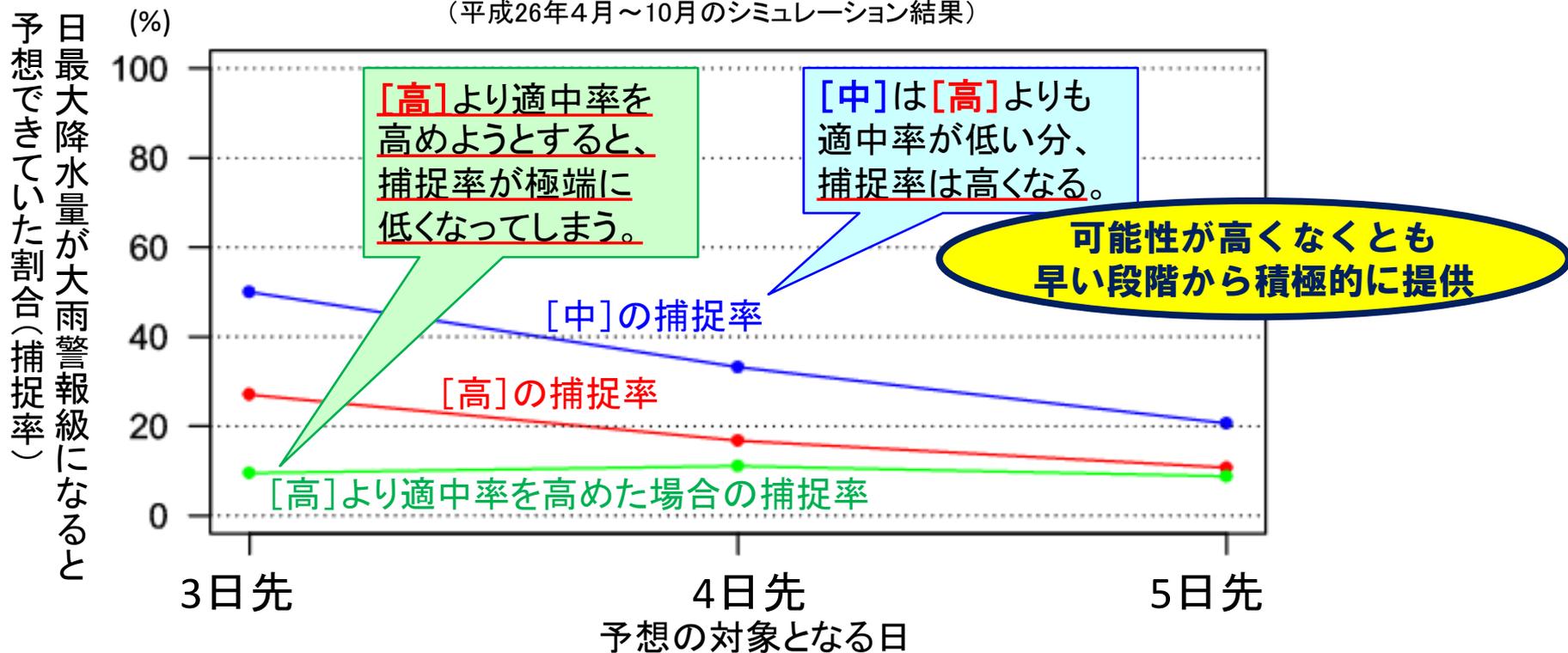
(平成28年6月～12月の全国分の事例を集計。)

「警報級の可能性」の「適中率」と「捕捉率」のトレードオフの関係

- 「警報級の可能性」の「適中率」(実際に大雨警報発表となる割合)を高めるためには、より確実に大雨と見込まれる事例に絞り込んで発表する必要があり、その結果、見逃しとなる事例が多くなり、「捕捉率」(大雨警報発表となることをあらかじめ予想できていた割合)は低くなってしまふ。
- 逆に、「適中率」を犠牲にすることで、「捕捉率」を高める(見逃しを減らす)ことができる。

大雨の「警報級の可能性」の捕捉率

(平成26年4月～10月のシミュレーション結果)



(注) 詳細な計算手順は次のとおり。週間天気予報の対象領域ごとに、実際に日最大降水量が大雨警報級(ここでは約100～150ミリ/日。以下同じ。)となった全事例を対象として、週間アンサンブル予報が、あらかじめ適中率(ここでは、大雨警報級となると予想したときに実際に大雨警報級となった割合)が3割程度([中]相当)、5割程度([高]相当)、7割程度([高]よりもさらに高い適中率に相当)となるように調整した発表条件を満たした事例をそれぞれ抽出し、全事例に対する割合(捕捉率)を計算した。

警報級の可能性の [高] 及び [中] の利活用のイメージ

警報級の 可能性	翌日まで 積乱雲や線状降水帯などの小規模な現象に伴う大雨から、 台風・低気圧・前線などの大規模な現象に伴う大雨までが対象。	2日先から5日先まで 台風・低気圧・前線などの大規模な現象に 伴う大雨が主な対象。
発表時刻・発表単位	天気予報に合わせて発表 毎日05時・11時・17時に、一次細分区域ごとに発表	週間天気予報に合わせて発表 毎日11時・17時に、府県予報区ごとに発表
<p>[高]</p> <p>対象区域内の いずれかの市町村で 警報発表中、又は、 警報を発表する ような現象発生の 可能性が高い状況。</p>	<p>翌日までの期間に「警報級の可能性」の [高] が発表されたときは、<u>「警報に 切り替える可能性に言及した注意報」</u>や <u>「予告的な府県気象情報」</u>が発表される 状況です。<u>これらの情報を確認いただき、 避難勧告等に関するガイドライン(内閣府) を踏まえた対応をご検討ください。</u></p>	<p>数日先の「警報級の可能性」の [高] や [中] が発表されたときは、 <u>心構えを早めに高めて、これから発表 される「台風情報」や「予告的な 府県気象情報」</u>に留意するようにして ください。</p>
<p>[中]</p> <p>[高] ほど可能性が 高くはないが、 対象区域内の いずれかの市町村で 警報を発表する ような現象発生の 可能性がある状況。</p>	<p>翌日までの期間に「警報級の可能性」の [中] が発表されたときは、これをもって 直ちに避難等の対応をとる必要は ありませんが、<u>深夜などの警報発表も 想定して心構えを一段高めていただき、 通常よりも一段高い対応などの検討材料 として参考にしてください。</u></p>	

↑「高」の方が「中」よりも空振りが少ない。

←「明日まで」の方が「明後日から5日先まで」よりも見逃しが少ない。

(「避難勧告等に関するガイドライン」(内閣府)の内容に基づき記述。)

「警報級の可能性」の都道府県・市町村における利活用方法の具体例 ～平成28年度出水期の事例における意見交換・聞き取り調査結果より～

週末に警報級の可能性[中]となるケース

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで 18-6	朝～夜遅く 6-24				
大雨	-	[中]	[中]	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-
暴風(暴風雪)	-	-	-	-	-	-
波浪	-	-	-	-	-	-



- 遠出を控えるなど、職員が心構えを持つことができた。
- 警報が発表される可能性は高くはないが、警報が発表されるかもしれない、という危機意識をもつことができた。
- 警報発表時に円滑な対応ができるよう、当直の職員に情報提供をした。
- 休日でもスムーズに参集できるよう、担当職員の所在を確認した。

翌日早朝にかけて警報級の可能性[中]となるケース

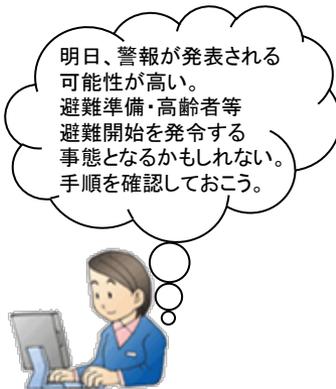
種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで 18-6	朝～夜遅く 6-24				
大雨	[中]	-	-	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-
暴風(暴風雪)	-	-	-	-	-	-
波浪	-	-	-	-	-	-



- 担当職員に対し、退庁後の自宅待機を促したため、警報発表時に体制を迅速に整えることができた。
- 勤務時間内に庁内放送を実施し、夜間でもすぐに職員が参集できるようにした。
- 気象情報を収集していたところで警報が発表されたので、円滑に対応できた。
- 夜間の登庁方法を考えておく等、警報発表に備えることができた。

次の日に警報級の可能性[高]となるケース

種別	1日	2日	3日	4日	5日	6日
	明け方まで 18-6	朝～夜遅く 6-24				
大雨	-	[高]	-	-	-	-
大雪	-	-	-	-	-	-
暴風(暴風雪)	-	[高]	-	-	-	-
波浪	-	[高]	-	-	-	-



- 避難準備・高齢者等避難開始を発令するタイミングの目安になった。
- 警報発表前に避難場所開設の準備を行うことができた。
- 台風接近時の離島への職員派遣の判断の参考になった。
- 台風接近時に、防災行政無線や防災メールで特に注意すべき時間帯を住民に周知する参考になった。
- 資機材の事前準備や確認のきっかけになった。
- 行事、イベント中止の判断の参考になった。
- 小中学校の休校や公共施設の閉鎖などの判断の参考になった。

[高]のときは、気象警報等で詳細な時間帯などを確認する。

気象警報等

〇〇県気象情報

改善Ⅲ

メッシュ情報の充実・利活用促進

土砂災害警戒判定メッシュ情報の表示の改善

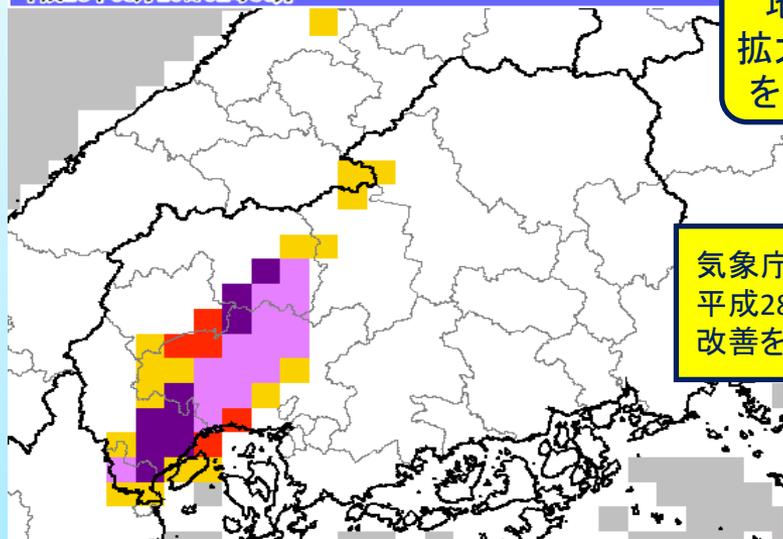
～ 土砂災害発生の危険度を地理情報と重ねて分かりやすく伝えます～

現状 【利用者の声】各メッシュの地図上の位置が分かりにくい。
【放送事業者の声】視聴者のなかには、自分の市町村がどのような形をしているのかを知らない人も多い（市町村境界だけを表示しても、どこだか分からない）。

計画 高解像度降水ナウキャストと同じプラットフォームを用いて、市町村名や既に公開されている国土数値情報の地理情報（道路・鉄道・河川等）と重ね合わせて提供。（平成28年5月24日に実施済み）

現状

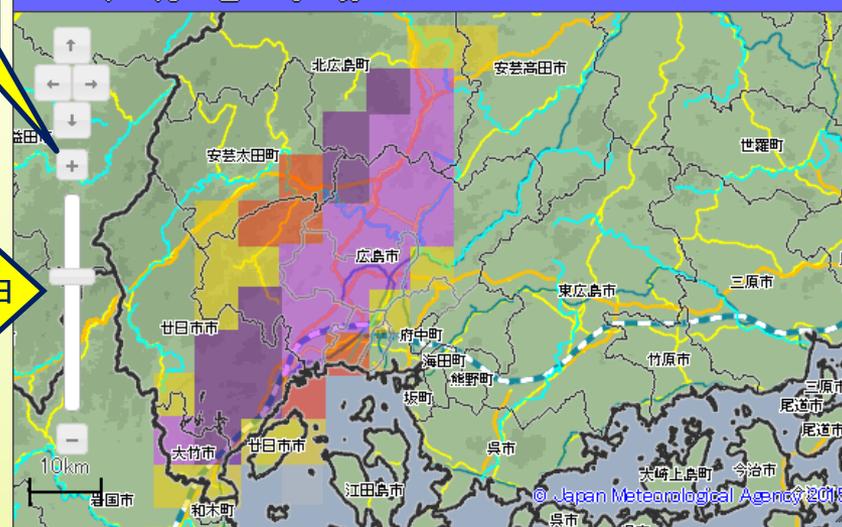
平成26年08月20日01時30分



市町村境界線だけでは、自分のいる場所がどこか分からない

改善後

2014年08月20日01時30分



道路・鉄道・河川等を重ねることで自分のいる場所と危険度が把握できる

自分に危険が迫っていることを知っていただく

大雨警報(土砂災害)の発表基準に用いている土壌雨量指数、及び、 大雨警報(土砂災害)を補足するメッシュ情報の提供

大雨警報(土砂災害)は、災害発生との相関の高い指数(土壌雨量指数)を発表基準に用いている。さらに、大雨警報(土砂災害)が発表された市町村内のどこで危険度が高まっているかを視覚的に確認できるよう、同指数も用いて、大雨警報(土砂災害)を補足するメッシュ情報を提供している。

危険度の高まりを伝える情報

大雨注意報

大雨警報
(土砂災害)

土砂災害警戒情報

等

危険度の
高まりを
伝える

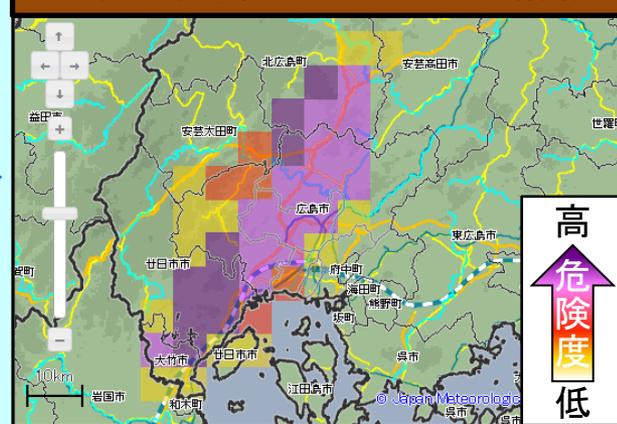
市町村

住民

危険な地域
を視覚的
に確認

警報等を補足する情報

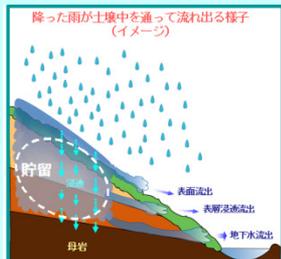
土砂災害警戒判定メッシュ情報



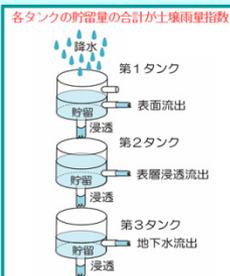
大雨警報(土砂災害)等が発表されている市町村内において、
実際にどこで危険度が高まっているかを確認

発表基準

土壌雨量指数



モデル化

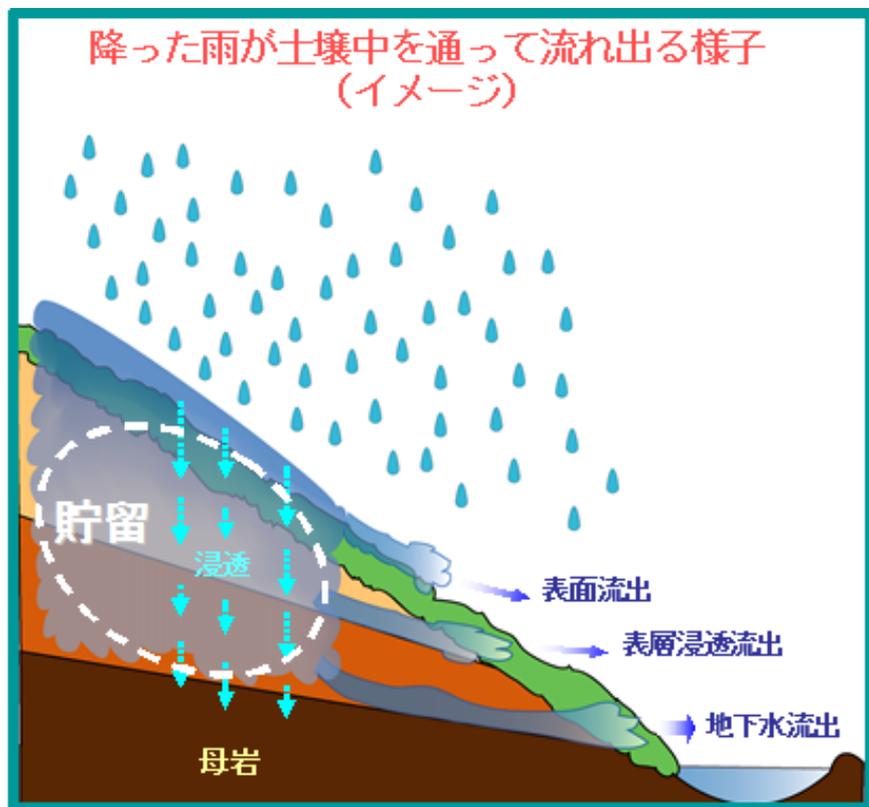


地図上に表示

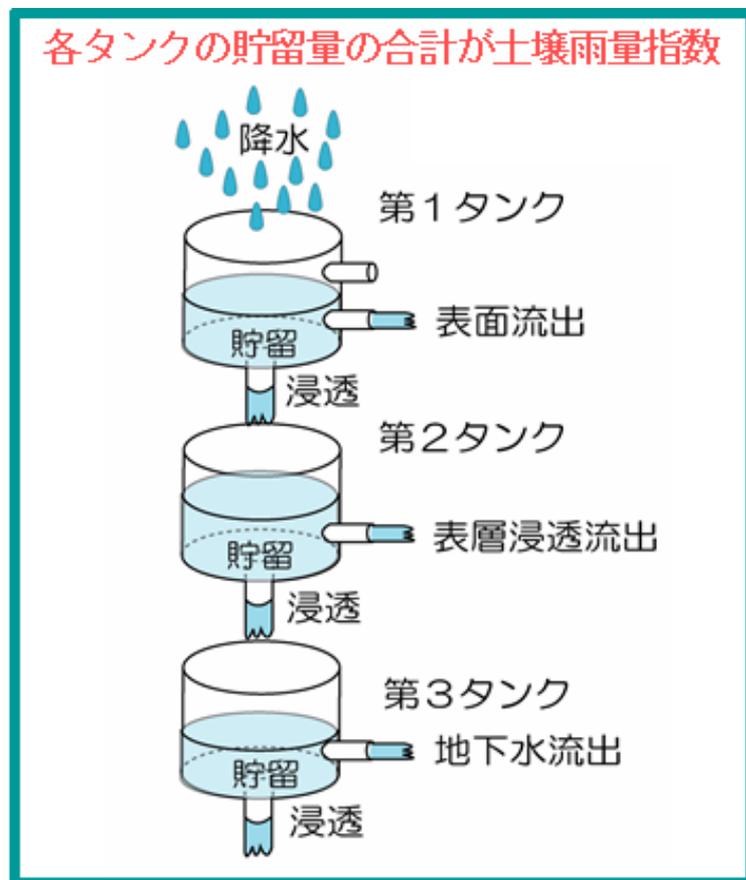
土壌雨量指数の概要

土壌雨量指数・・・土砂災害危険度の高まりを把握するため、降った雨が土壌中に水分量としてどれだけ貯まっているかを、タンクモデルを用いて指数化した指標

※「タンクモデル」とは、下図のように降った雨が土壌中を流れて流れる様子を孔の開いたタンクを用いてモデル化したもの。3段に重ねた各タンクの側面には水がまわりに流れ出すことを表す流出孔が、底面には水がより深いところに浸み込むことを表す浸透流出孔がある。土壌雨量指数は、各タンクに残っている水分量(貯留量)の合計として算出する。

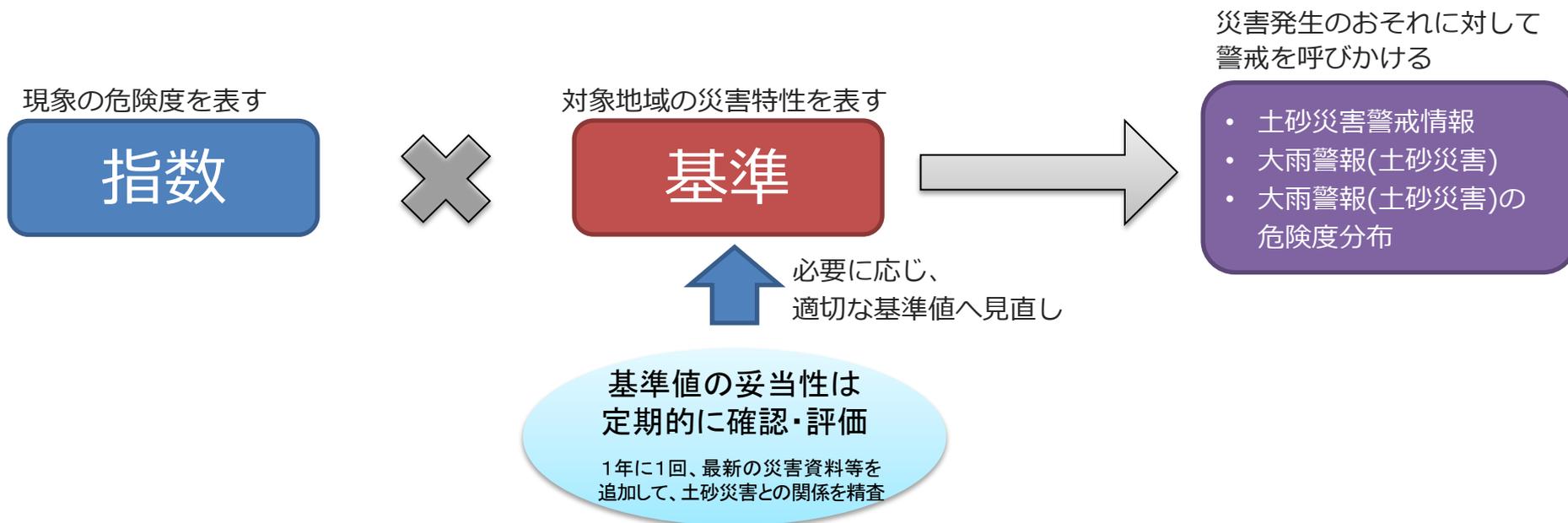


モデル化



大雨警報(土砂災害)の発表基準の設定・管理

- 大雨警報(土砂災害)等の発表基準(基準値)は、過去に発生した土砂災害を網羅的に調査した上で設定している。地盤の崩れやすさなどの違いは、災害発生状況の違いとして現れるので、災害実績との関係から設定する基準値に反映されることになる。
- 基準値の妥当性は定期的に確認・評価するとともに、必要に応じ、適切な基準値への見直しを行っている。

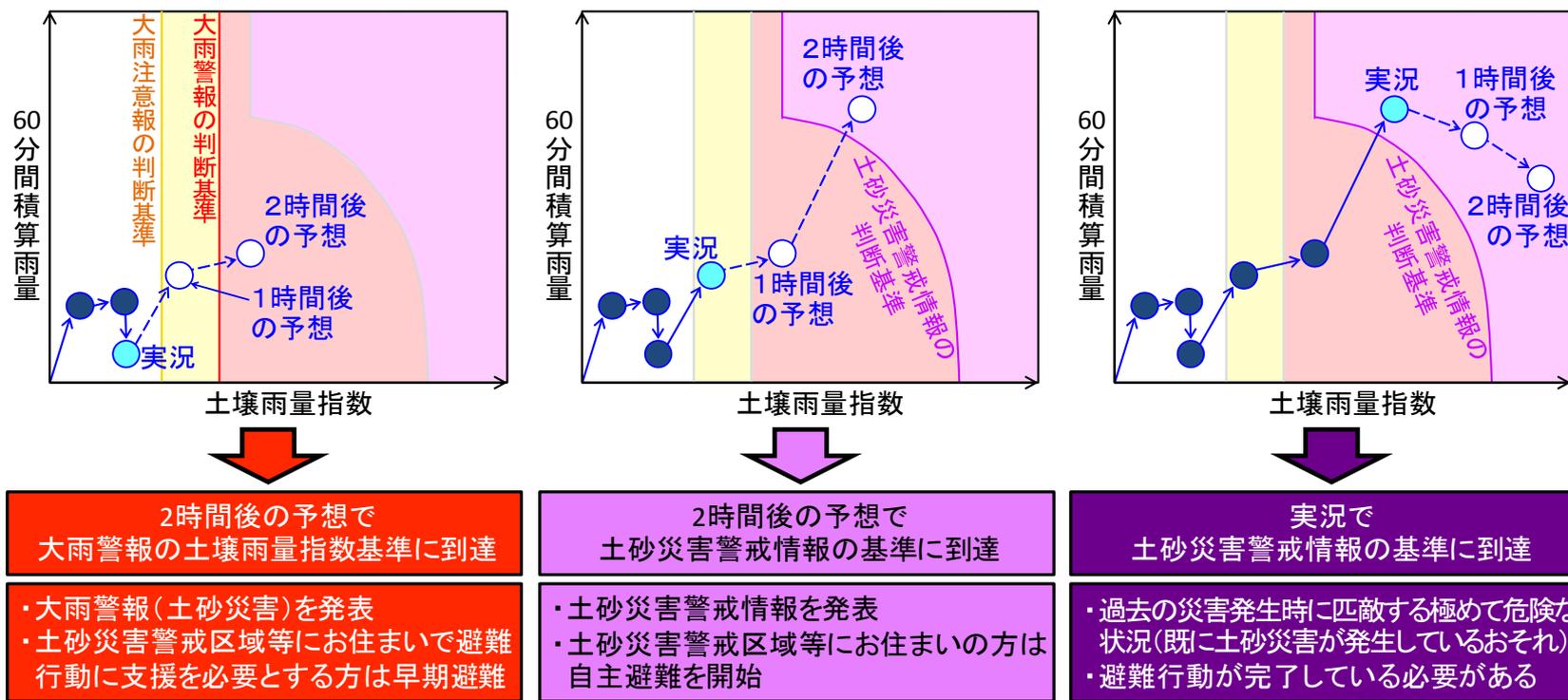


※ 土壌雨量“指数”そのものは相対的な土砂災害危険度であるが、大雨警報等の“基準”に到達したかどうかで、命に危険を及ぼすような重大な災害のおそれの有無(警報級の大雨かどうか)を判断することができる。

土砂災害に関するメッシュ情報で提供している危険度・切迫度の判定の考え方

「気象業務はいま2016」(P50)

大雨に伴って発生する土砂災害には、現在降っている雨だけでなく、これまでに降った雨による土壌中の水分量が深く関係しており、土砂災害警戒情報、大雨警報（土砂災害）及び大雨注意報を発表する判断基準には、降った雨による土壌中の水分量を示す「土壌雨量指数」を用いています。大雨によって土壌雨量指数等が土砂災害警戒情報の**基準を超えると**、過去の土砂災害発生時に匹敵する**極めて危険な状況**になったことを意味します。**そこで**、土砂災害警戒情報は、情報が発表され防災機関や住民に伝わり**避難行動がとられるまでにかかる時間を確保するよう、2時間先までの**降雨による土壌雨量指数等の**予想を用いて**発表の判断をしています。



(図は気象庁ホームページ「土砂災害警戒判定メッシュ情報の判定の仕組み」(<http://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/bosai/doshakeikai.html#e>)に加筆)

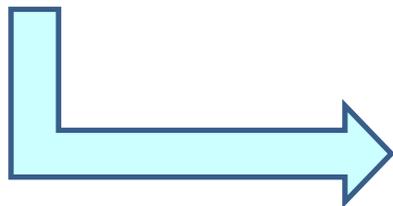
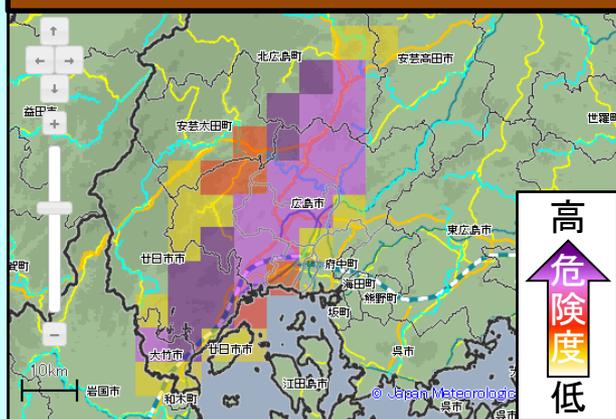
土砂災害に関するメッシュ情報で提供している危険度・切迫度について

(3段階の危険度に対応する時間的猶予に応じて5段階の危険度・切迫度を判定)

大雨注意報、大雨警報、土砂災害警戒情報の基準を、仮に基準Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと表現することにしたとき、土砂災害に関するメッシュ情報で提供している危険度・切迫度は次のように整理できる。

警報等を補足する情報

大雨警報(土砂災害)の危険度分布



3段階の危険度、及び、それらに達するまでの時間的猶予に応じて、危険度・切迫度を5段階に判定しています。

色	危険度	表示基準 (危険度・切迫度)
濃い紫		<ul style="list-style-type: none"> 既に実況で基準Ⅲに到達した場合
薄い紫	↑ 基準Ⅲ 土砂災害警戒情報の基準	<ul style="list-style-type: none"> 2時間先までに基準Ⅲに到達すると予想される場合
赤	↑ 基準Ⅱ 大雨警報(土砂災害)の 土壌雨量指数基準	<ul style="list-style-type: none"> 2時間先までに基準Ⅱに到達すると予想される場合
黄	↑ 基準Ⅰ 大雨注意報の 土壌雨量指数基準	<ul style="list-style-type: none"> 2時間先までに基準Ⅰに到達すると予想される場合
白		<ul style="list-style-type: none"> 2時間先までに基準Ⅰに到達しないと予想される場合

○ 土砂災害警戒判定メッシュ情報を活用した避難のタイミングとエリアの考え方が内閣府の「ガイドライン」に追記。（平成27年度）

◆ 内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」① P11

- ・土砂災害警戒判定メッシュ情報において、**黄色のメッシュ**は、「実況または予想で大雨注意報基準に到達」することを示しており、この段階から、今後の大雨警報（土砂災害）の発表に注意し、土砂災害警戒判定メッシュ情報で発表される危険度をこまめに入手することが望ましい。
- ・**赤色のメッシュ**は、「実況または予想で大雨警報（土砂災害）基準に到達」することを示しており、この基準は要配慮者の避難に要する時間を考慮して設定されている。このため、土砂災害警戒区域・危険箇所等に居住する要配慮者はこの段階で避難開始となる。また、土砂災害の予測の困難さから、その他の居住者等も、この段階から自発的に避難を開始することが強く望まれる。
- ・**薄い紫色のメッシュ**は、「予想で土砂災害警戒情報の基準に到達」することを示しており、人命や身体に危害を生じる土砂災害がいつ発生してもおかしくない**非常に危険な状況**となっている。
- ・**濃い紫色のメッシュ**は、「実況で土砂災害警戒情報の基準に到達」し、過去の土砂災害発生時に匹敵する**極めて危険な状況**となっており、すでに土砂災害が発生していてもおかしくない。このため、土砂災害警戒区域・危険箇所等の居住者等は、可能な限り早めの避難行動を心がけ、遅くとも該当するメッシュが薄い紫色になった段階で速やかに避難行動を開始し、濃い紫色に変わるまでに避難行動を完了しておく必要がある。

高 ↑ 危険度 ↓ 低	土砂災害発生の危険度の高まり	内閣府のガイドラインで、メッシュ内の土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域等の住民等がとることが望ましいとされている避難行動
	濃い紫色	実況で土砂災害警戒情報の基準に到達
薄い紫色	予想で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難行動を開始
赤色	大雨警報の基準に到達	要配慮者は避難行動を開始
黄色	大雨注意報の基準に到達	メッシュ情報の危険度をこまめに確認
低	大雨注意報の基準未滿	今後の情報等に留意

- 土砂災害警戒判定メッシュ情報を活用した避難勧告等のタイミングについての考え方が内閣府の「ガイドライン」に追記。(平成27年度)

◆ 内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」② P30

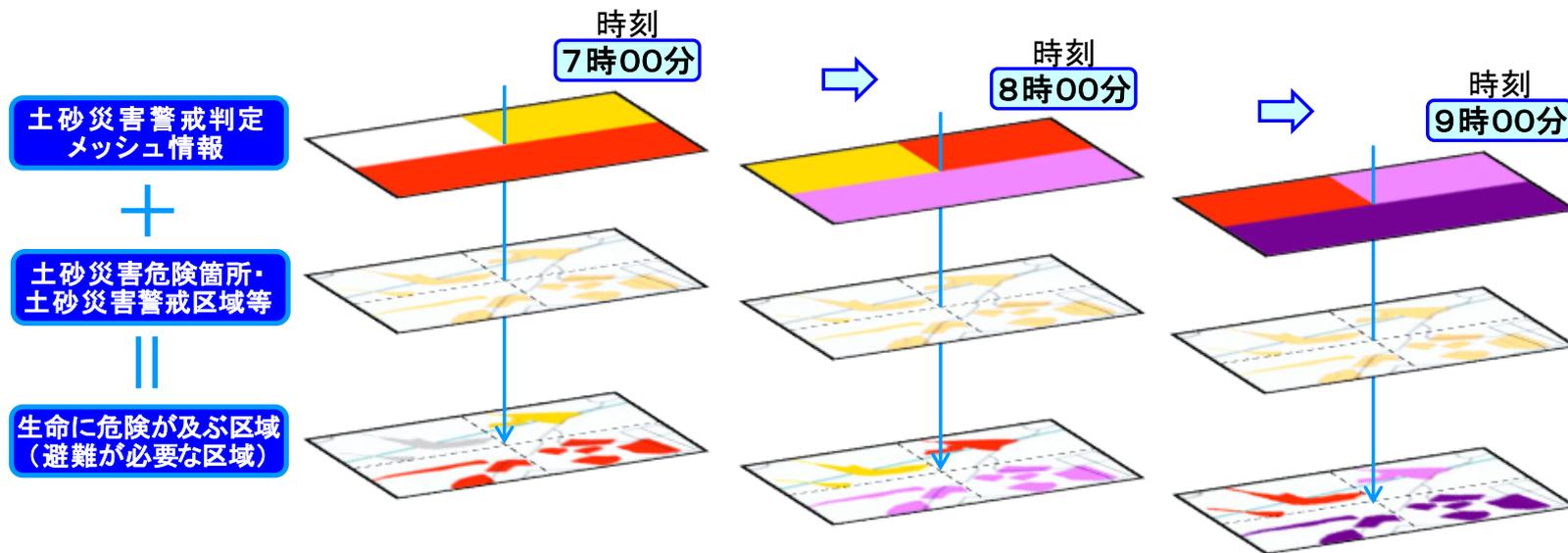
避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)は、土砂災害に関するメッシュ情報における危険度に応じて発令する。具体的には、実況または予想で大雨警報の土壌雨量指数基準に到達した場合には避難準備・高齢者等避難開始を発令し、予想で土砂災害警戒情報の基準に到達した場合には避難勧告を発令し、実況で土砂災害警戒情報の基準に到達した場合には避難指示(緊急)を発令する。

	土砂災害発生の危険度の高まり	内閣府のガイドラインで、メッシュ内の土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域等を対象に発令を検討することとされている避難情報
<p>高 危険度 低</p>	実況で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難指示(緊急)
	予想で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難勧告
	大雨警報の基準に到達	避難準備・高齢者等避難開始
	大雨注意報の基準に到達	—
	大雨注意報の基準未滿	—

○ 土砂災害警戒判定メッシュ情報を活用した避難勧告等のエリアについての考え方が内閣府の「ガイドライン」に追記。(平成27年度)

◆ 内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」② P29

避難勧告等の発令範囲を絞り込むため、土砂災害警戒区域・危険箇所等を避難勧告等発令の対象要素としてあらかじめ定めておき、土砂災害に関するメッシュ情報において危険度が高まっているメッシュと重なった土砂災害警戒区域・危険箇所等に避難勧告等を発令することを検討する。



	土砂災害発生の危険度の高まり	メッシュ内の土砂災害警戒区域等を対象に発令を検討することとされている避難情報
↑ 高 危険度 ↓ 低	実況で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難指示(緊急)
	予想で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難勧告
	大雨警報の基準に到達	避難準備・高齢者等避難開始
	大雨注意報の基準に到達	—
	大雨注意報の基準未滿	—

「防災基本計画」の改定（土砂災害の避難勧告等の発令基準・範囲）

- 土砂災害のメッシュ情報と警戒区域を重ね合わせた範囲に絞り込んで避難勧告等を発令する考え方が、「**防災基本計画**」に追記。（平成27年度）

土砂災害警戒判定メッシュ情報

+

土砂災害危険箇所
土砂災害警戒区域等

=

生命に危険が及ぶ区域
(避難が必要な区域)

高
危険度
低

土砂災害発生の危険度の高まり	内閣府のガイドラインで、メッシュ内の土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域等を対象に発令を検討することとされている避難情報
実況で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難指示(緊急)
予想で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難勧告
大雨警報の基準に到達	避難準備・高齢者等避難開始
大雨注意報の基準に到達	—
大雨注意報の基準未達	—

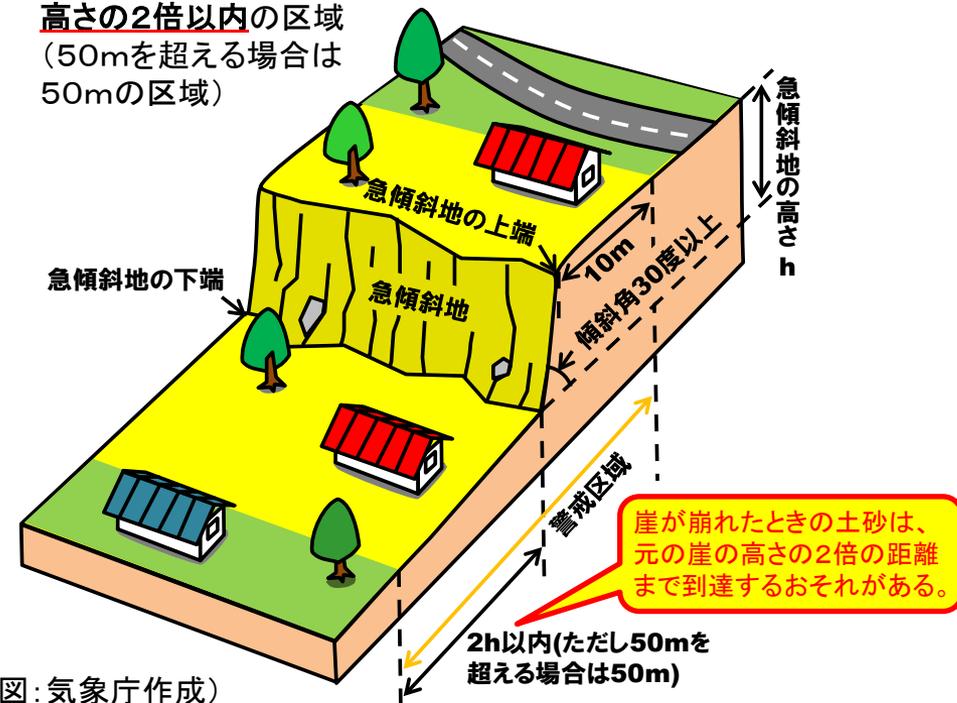
「防災基本計画」(P138)

市町村は、土砂災害に対する住民の警戒避難体制として、土砂災害警戒情報が発表された場合に直ちに避難勧告等を発令することを基本とした具体的な避難勧告等の発令基準を設定するものとする。また、土砂災害警戒区域等を避難勧告等の発令単位として事前に設定し、土砂災害警戒情報及び土砂災害警戒情報を補足する情報等を用い、事前に定めた発令単位と危険度の高まっている領域が重複する区域等に避難勧告等を絞り込んで発令できるよう、発令範囲をあらかじめ具体的に設定するとともに、必要に応じ見直すよう努めるものとする。国〔国土交通省〕は、これらの基準及び範囲の設定及び見直しについて、必要な助言等を行うものとする。

土砂災害警戒区域

急傾斜地の崩壊

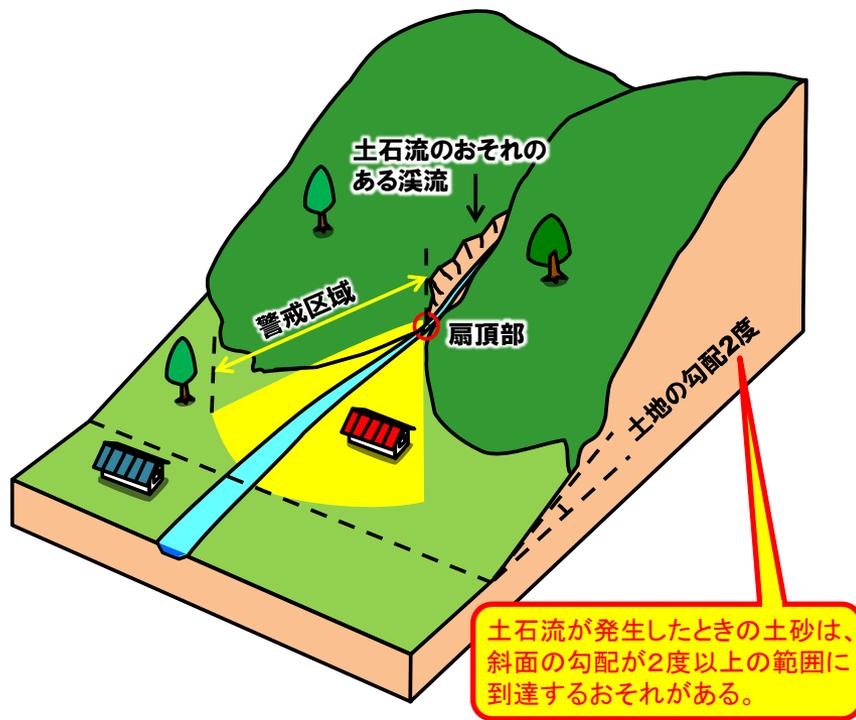
- 傾斜度が30度以上で高さが5m以上の区域
- 急傾斜地の上端から水平距離10m以内の区域
- 急傾斜地の下端から急傾斜地の高さの2倍以内の区域
(50mを超える場合は50mの区域)



(図: 気象庁作成)

土石流

- 土石流の発生のおそれのある溪流において、扇頂部から下流で勾配が2度以上の区域



- 急傾斜地の崩壊に関する事項 (過去の土砂災害に関するデータ) 崩土の到達距離は、**全体の99%が2h未満**、かつ、**50m未満**。
- 家屋被害を発生させた土石流に関する過去のデータによれば、土砂堆積範囲の下流端の土地の勾配は、**全体の95%が2度以上**。

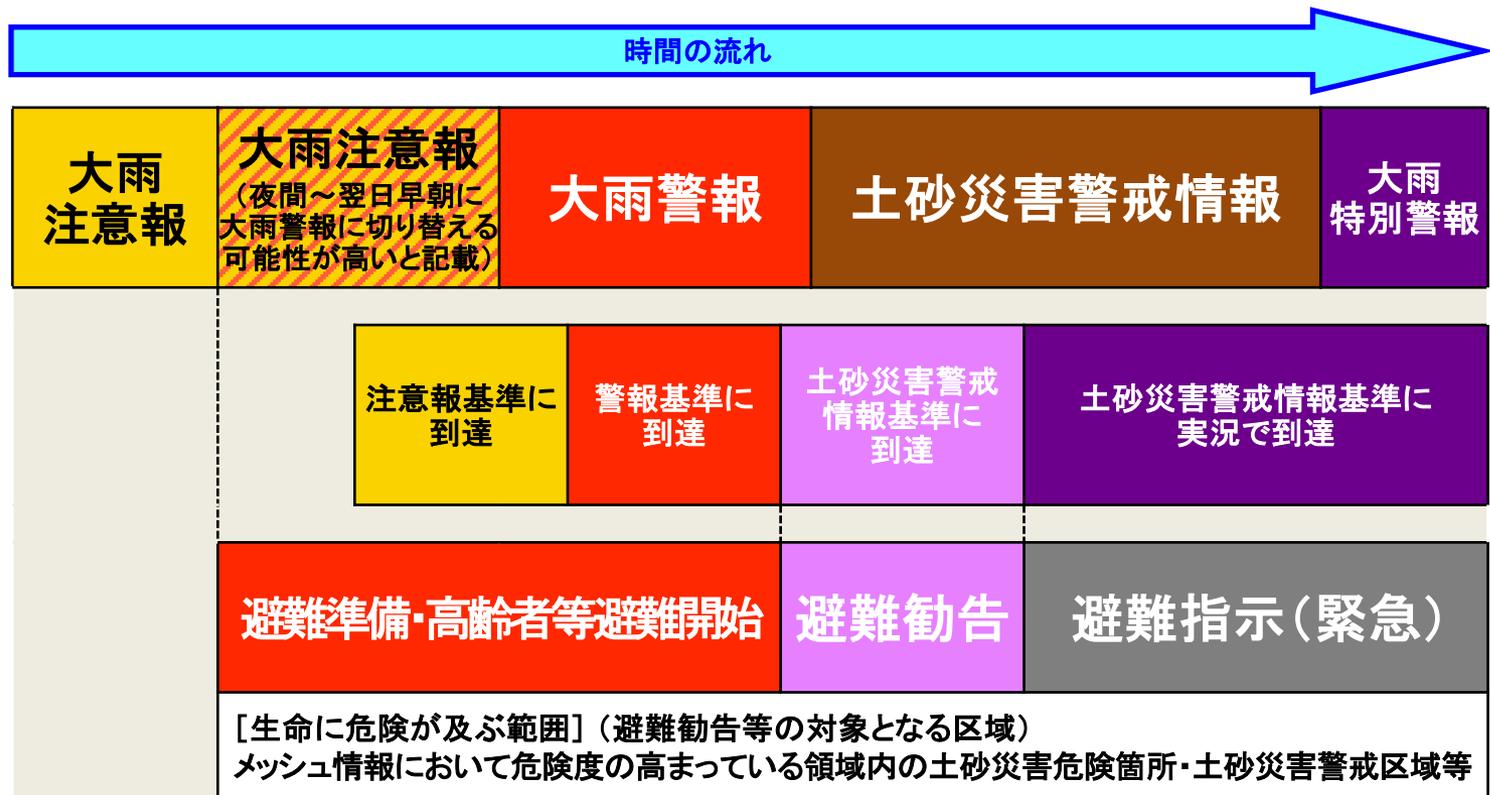
- **土砂災害警戒判定メッシュ情報や大雨警報に切り替える可能性に言及した注意報等を活用した避難勧告等のタイミングとエリアについての考え方が内閣府の「ガイドライン」に追記。(平成27年度)**

◆ 内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」② P30

避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示(緊急)は、土砂災害に関するメッシュ情報における危険度に応じて発令する。具体的には、実況または予想で大雨警報の土壤雨量指数基準に到達した場合には避難準備・高齢者等避難開始を発令し、
予想で土砂災害警戒情報の基準に到達した場合には避難勧告を発令し、
実況で土砂災害警戒情報の基準に到達した場合には避難指示(緊急)を発令する。ただし、立退き避難が困難となる夜間において避難勧告等を発令する可能性がある場合には、夕方等の明るい時間帯に避難準備・高齢者等避難開始を発令することを検討する。具体的には、夕刻時点において、大雨警報（土砂災害）が夜間にかけて継続する場合、または大雨注意報が発表されている状況で当該注意報の中で夜間～翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い旨に言及されている場合等が該当する。

高 ↑ 危険度 ↓ 低	土砂災害発生の危険度の高まり	内閣府のガイドラインで、メッシュ内の土砂災害危険箇所・土砂災害警戒区域等を対象に発令を検討することとされている避難情報
	実況で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難指示(緊急)
	予想で土砂災害警戒情報の基準に到達	避難勧告
	大雨警報の基準に到達	避難準備・高齢者等避難開始
	大雨注意報の基準に到達	—
	大雨注意報の基準未滿	—

土砂災害に関する防災気象情報を活用した避難行動



夕方に発表中の大雨注意報に、夜間～翌日早朝までに大雨警報発表の可能性が高いと記載されている場合には、土砂災害警戒区域等にお住まいの方は避難の準備をお願いします。大雨警報が発表され、土砂災害警戒判定メッシュ情報(以下「メッシュ情報」)において「大雨警報の基準に到達」した領域の土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、いつでも避難を開始できるように避難準備をしていただくことが重要です。その後、メッシュ情報において「予想で土砂災害警戒情報の基準に到達」した場合には土砂災害警戒情報が発表され、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況となっていますので、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所へ避難するよう心がけてください。さらにメッシュ情報において「実況で土砂災害警戒情報の基準に到達」すると、土砂災害発生の危険度が一層高まり、過去の土砂災害発生時に匹敵する極めて危険な状況(既に土砂災害が発生してもおかしくない状況)となりますので、土砂災害警戒区域等にお住まいの方は、この段階を待ってから避難を開始しようとするのではなく、この段階までには避難を完了しておくよう心がけてください。大雨特別警報の発表を待つことなく、危険度の高まりに応じて時間を追って段階的に発表される注意報、警報、土砂災害警戒情報やメッシュ情報などを活用して早めの避難をお願いします。

土砂災害に関する防災気象情報を活用した避難行動

気象状況

大雨の数日～約1日前

大雨の可能性が高くなる



大雨の半日～数時間前

雨が降り始める



雨が強さを増す



大雨の数時間～2時間程度前

大雨となる



大雨が一層激しくなる



広い範囲で数十年に一度の大雨

気象庁の情報

警報級の
可能性

大雨
注意報

大雨警報
(土砂災害)

大雨
特別警報
(土砂災害)

大雨に
関する
気象情報

記録的短時間大雨情報
土砂災害警戒情報

市町村の対応

- ・心構えを一段高める
- ・職員の連絡体制を確認
- ・今後の気象状況に注意
- ・災害準備体制
(連絡要員を配置、防災気象情報を把握)
- ・災害注意体制
(避難準備・高齢者等避難開始の発令を判断できる体制)
- ・避難準備・高齢者等避難開始
(発表中の注意報に、夜間に警報発表の可能性が高いと記載されている場合)
- ・避難準備・高齢者等避難開始
(台風の暴風域に入る前に)
- ・災害警戒体制
(避難勧告の発令を判断できる体制)
- ・土砂災害発生の危険度が高まっているメッシュ内の土砂災害警戒区域等に避難勧告
- ・災害対策本部設置
- ・最大危険度のメッシュ内の土砂災害警戒区域等に避難指示(緊急)
- ・特別警報の住民への周知
- ・メッシュ情報を参照し、避難指示(緊急)等の対象区域を再度確認

住民の行動等

気象情報やハザードマップを確認



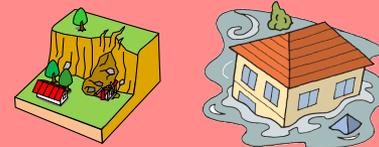
- ・心構えを一段高める
- ・土砂災害警戒区域等の危険な箇所を把握
- ・避難場所や避難ルートを確認

最新の情報を把握して、災害に備えた早めの準備を

- ・発表中の注意報に、夜間に大雨警報発表の可能性が高いと記載されている場合は、土砂災害警戒区域等にお住まいで避難行動に支援を必要とする方は、早めの避難



土砂災害警戒区域等にお住まいの方は地元市町村からの避難情報に留意するとともに「土砂災害警戒判定メッシュ情報」を確認し、速やかに避難



- ・大雨警報や土砂災害警戒情報の基準への到達が予想されるメッシュでは、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所に避難

既に重大な災害が発生していてもおかしくない極めて危険な状況

- ・避難しようとしたときに屋外に出るとかえって生命に危険が及ぶと判断した場合は、少しでも命が助かる可能性が高い行動として2階以上の、崖や沢からなるべく離れた部屋で待避

数十年に一度のこれまでに経験したことがないような異常事態



- ・直ちに地元市町村の避難情報に従うなど適切な行動を!

Point
備えは大丈夫?



Point
土砂災害警戒区域等にお住まいの方は早めの行動を!

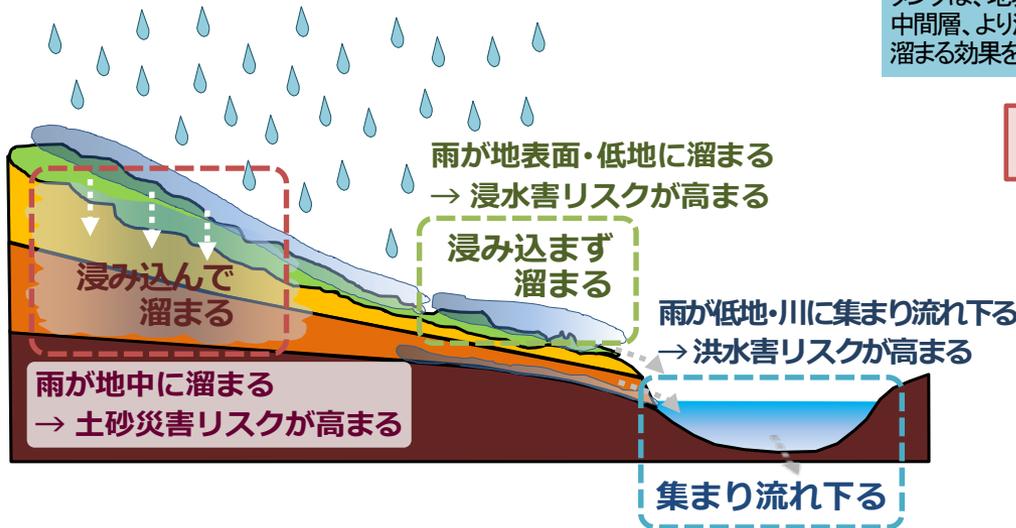


雨によって引き起こされる災害発生の危険度の高まりを評価する技術

(土壌雨量指数・表面雨量指数・流域雨量指数と危険度分布)

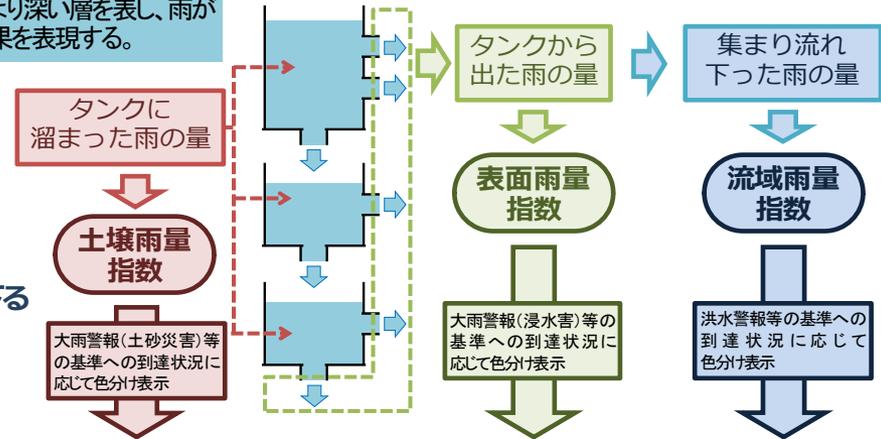
雨による重大な災害が発生する危険度の高まりを評価する技術を開発中。すでに運用中の土砂災害のメッシュ情報に加え、浸水災害についても危険度分布の予測を示す情報を開発中。

雨によって
災害発生の危険度が高まるメカニズムは
以下の3つが考えられる。

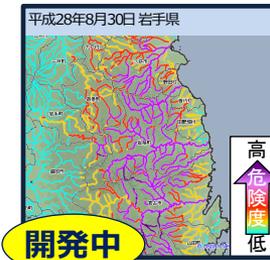
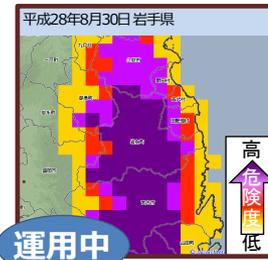


左のメカニズムを“**タンクモデル**”で表現し
各々の災害の危険度の高まりを“**指数**”化し
警報等の“**基準**”への到達状況に応じて色分け表示。

タンクは、地表面や地中の表層、
中間層、より深い層を表し、雨が
溜まる効果を表現する。



3つの指数を用いて、雨によって引き起こされる災害の危険度の高まりを評価し、危険度分布の予測を面的に把握できる。



大雨警報(浸水害)を改善するための表面雨量指数（仮称）の導入、及び、 大雨警報(浸水害)の危険度分布の提供

- ① 大雨警報(浸水害)の改善を図るため、大雨警報(浸水害)の発表基準に、短時間強雨による浸水害発生との相関が雨量よりも高い指数(表面雨量指数(仮称))を導入する。
- ② 大雨警報(浸水害)を補足するため、市町村内のどこで大雨警報(浸水害)基準値に達するかを視覚的に確認できるように、表面雨量指数(仮称)を基準値で判定した結果を危険度分布の予測を示す情報として提供する。

危険度の高まりを伝える情報

大雨注意報

大雨警報
(浸水害)

等

危険度の
高まりを
伝える

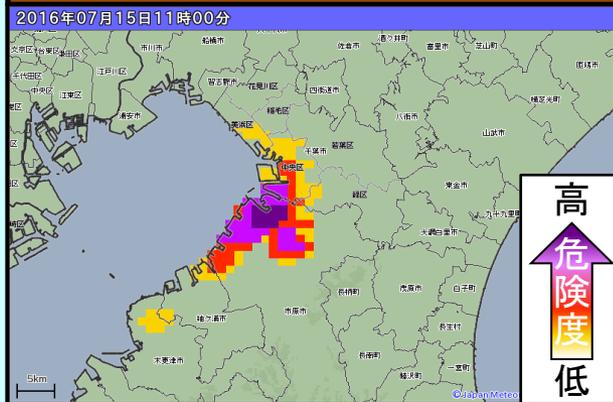
市町村

危険な地域
を視覚的
に確認

住民

警報等を補足する情報

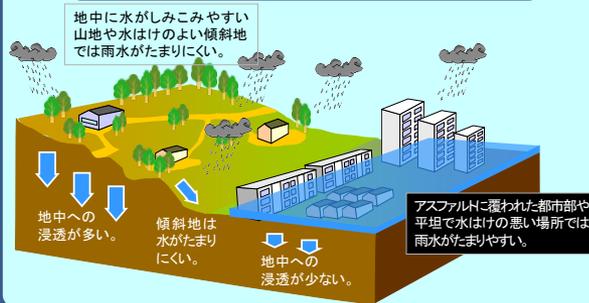
大雨警報(浸水害)の危険度分布



大雨警報(浸水害)等が発表された市町村内において、実際にどこで危険度が高まっているかを確認。

短時間強雨による浸水害発生と相関が高い指標

表面雨量指数(仮称)



危険な地域を分かりやすく表示

(平成29年度出水期)

基準判定結果を地図上に表示

精度改善(不要な警報の発表回避等)

(平成29年度出水期)

発表基準※に導入

※ 短時間強雨による浸水害発生との相関が高い表面雨量指数(仮称)の導入に伴い、現在用いている雨量基準(1時間雨量基準、3時間雨量基準)は廃止する予定。

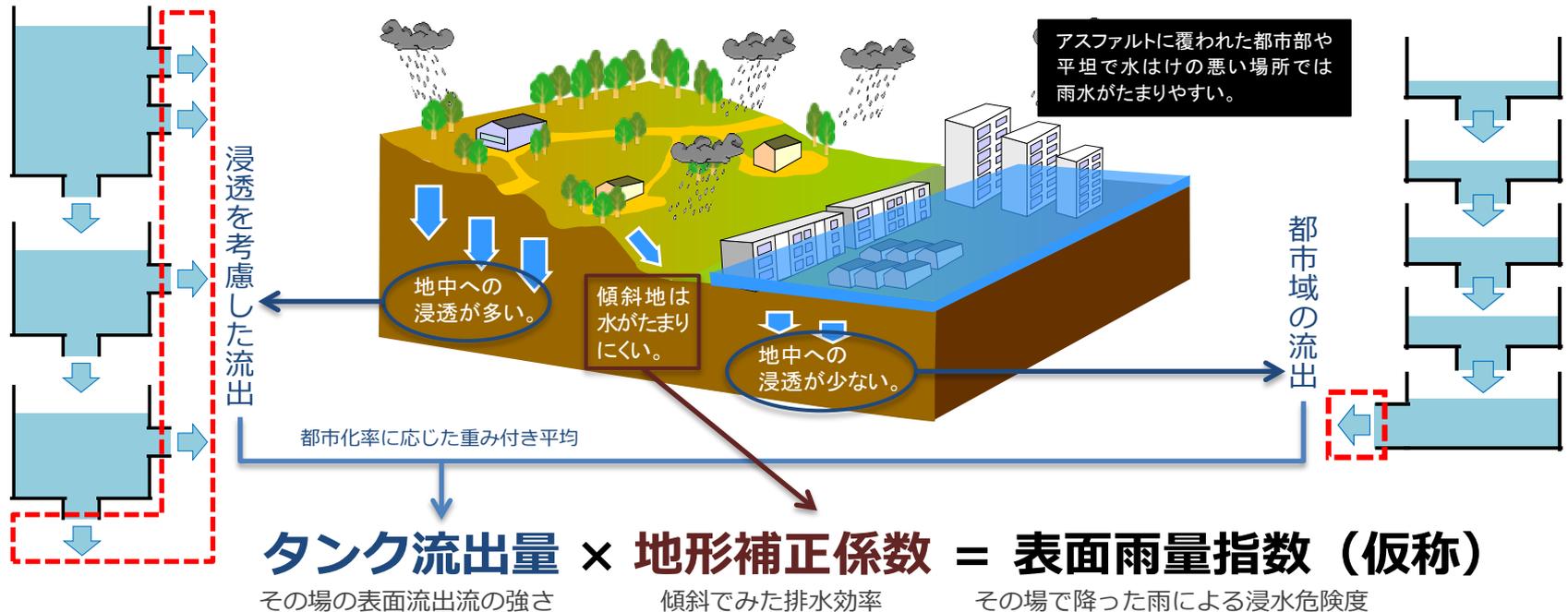
表面雨量指数（仮称）の概要

表面雨量指数（仮称）・・・地面の被覆状況や地質、地形勾配等の地理情報を考慮して、降った雨が地表面にたまっている量をタンクモデルにより数値化した指標

非都市部
直列三段タンクモデルを使用

地中に水がしみこみやすい山地や水はけのよい傾斜地では雨水がたまりにくい。

都市部
五段タンクモデルを使用



表面雨量指数（仮称）の特徴

- 平坦な場所や都市域で大きな値を示す傾向がある。
- 短時間に降る局地的な大雨による浸水害発生との相関が高い。

大雨警報(浸水害)・大雨注意報の基準と危険度分布での表示

危険度分布の予測を示す情報で用いられる

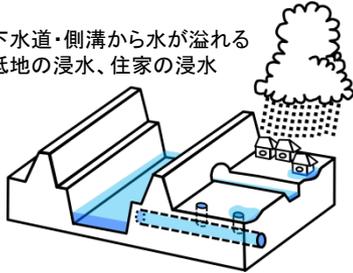
大雨警報(浸水害)・大雨注意報の基準

H29
導入

表面雨量指数基準

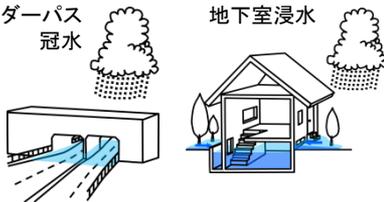
下水道や側溝の排水能力を超える大雨による浸水害発生危険度の高まりを判定。

下水道・側溝から水が溢れる
低地の浸水、住家の浸水



アンダーパス
冠水

地下室浸水

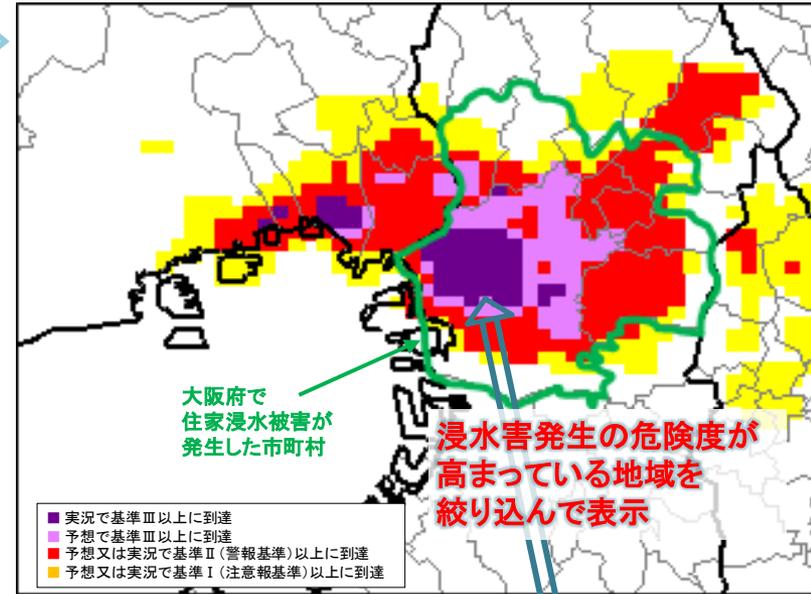


下記Ⅰ～Ⅲの基準に従い、
表面雨量指数(仮称)をメッシュ毎に判定。

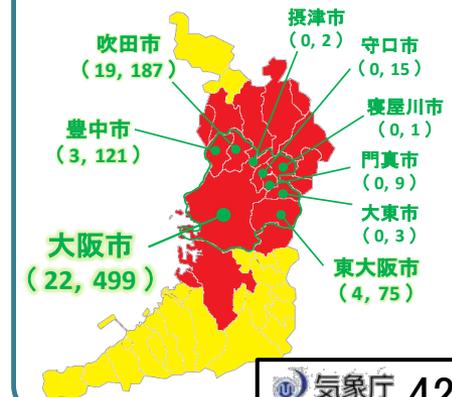
Ⅲ	<p>重大な浸水害が発生するおそれが高い</p> <p>警報対象災害に対して、適中率を重視して表面雨量指数基準値を設定。</p>	警報相当
Ⅱ	<p>重大な浸水害が発生するおそれ</p> <p>警報対象災害に対して、捕捉率を重視して表面雨量指数基準値を設定。</p>	
Ⅰ	<p>浸水害が発生するおそれ</p> <p>注意報対象災害に対して、捕捉率を重視して表面雨量指数基準値を設定。</p>	注意報相当

過去に発生した浸水害との関係や、それぞれの値に達する頻度等を調査の上、基準を設定する。

平成25年8月前線による大雨：大阪府
大雨警報(浸水害)の危険度分布



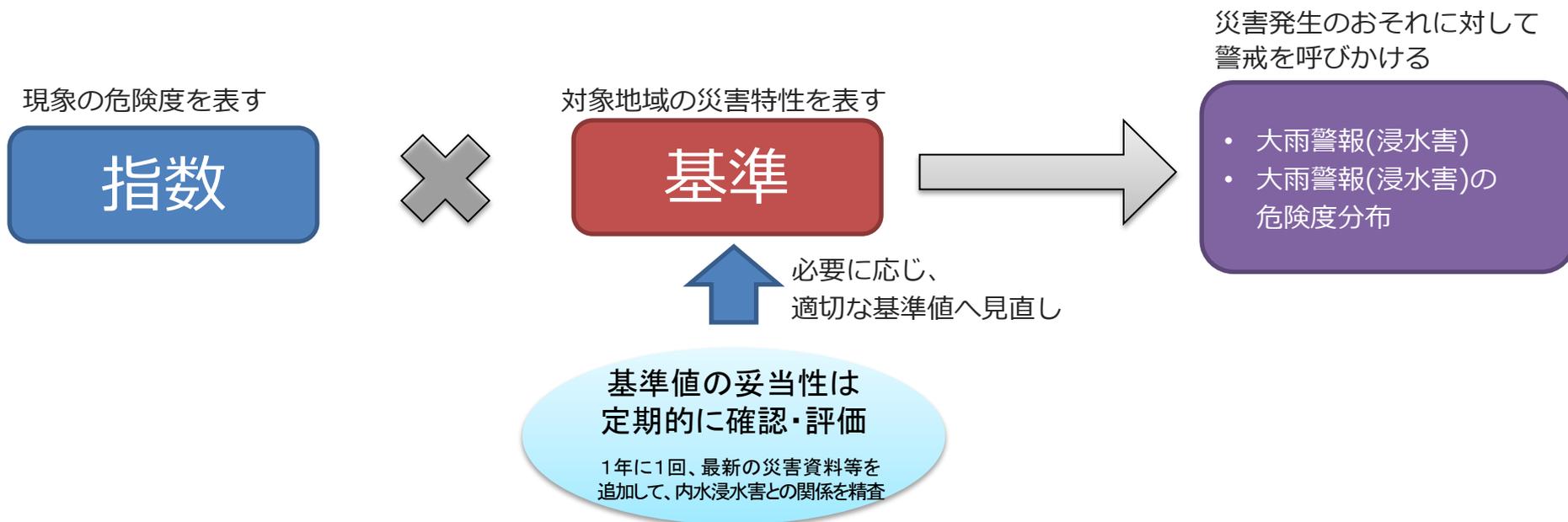
大雨警報(浸水害)・大雨注意報の発表状況(当時)と浸水被害数(床上,床下)



- 大雨警報(浸水害)の危険度分布は、下水道や側溝の排水能力を超える大雨による浸水害発生危険度の高まりを表す。
- 平坦な場所やくぼ地など地形的に浸水害が発生しやすい場所で高い危険度を示す傾向がある。

基準値の設定・管理

- 基準値は、過去に発生した内水浸水害との関係や、(過去災害記録の無い地域においては)値に達する頻度に基づき、設定する。下水道や排水ポンプの整備状況は、災害発生状況の変化として現れるので、浸水実績との関係から設定する基準値に反映されることになる。
- 基準値の妥当性は定期的に確認・評価(1年に1回、最新の災害資料等を追加して、内水浸水害との関係を精査)するとともに、必要に応じ、適切な基準値への見直しを行う。

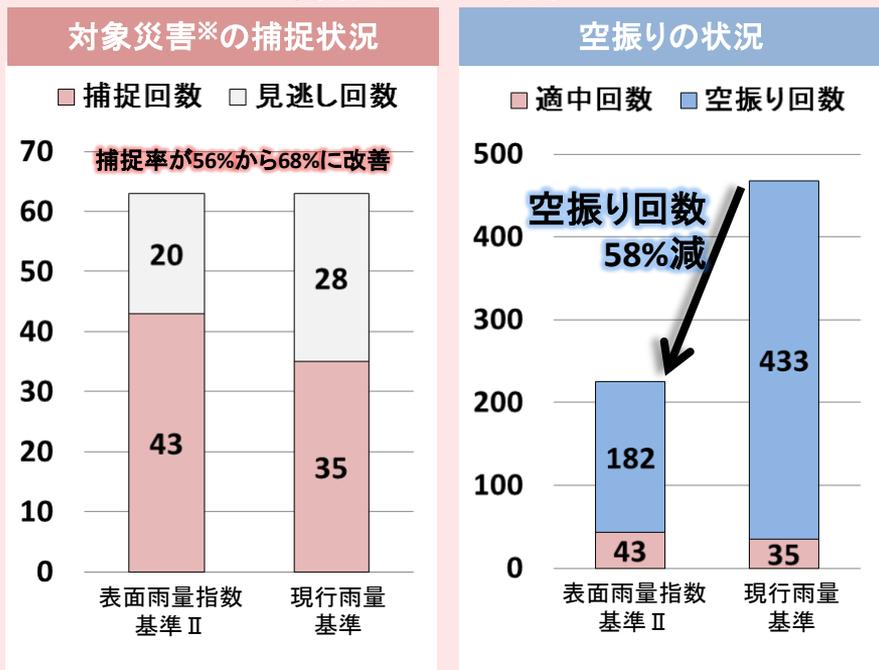


※ 表面雨量“指数”そのものは相対的な浸水害危険度であるが、大雨警報等の“基準”に到達したかどうかで、命に危険を及ぼすような重大な災害のおそれの有無(警報級の大雨かどうか)を判断することができる。

表面雨量指数（仮称）導入による大雨警報(浸水害)の改善効果 ～ 現行雨量基準と表面雨量指数基準の統計的検証より～

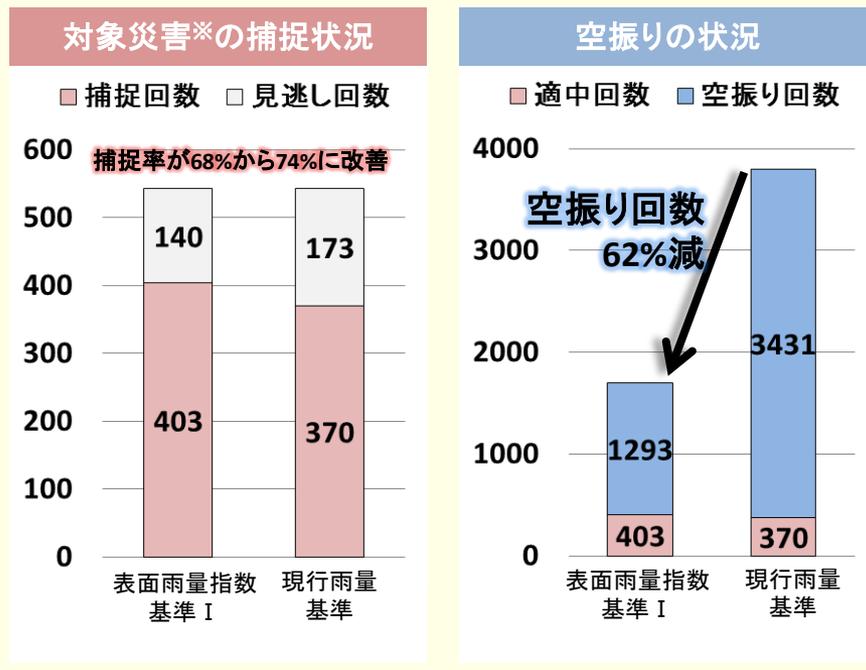
1991年から2012年にかけて兵庫県で発生した浸水事例(外水氾濫が発生した事例は除く)に対して、現行雨量基準と表面雨量指数基準の災害捕捉状況を比較検証した。

警報基準の評価



※浸水総数30棟～80棟程度(市町によって異なる)

注意報基準の評価



※浸水1棟以上、道路冠水・農地冠水・河川被害1箇所以上(全市町共通)

表面雨量指数基準は、現行基準に比べて、災害捕捉率を改善した上で、空振り回数を大幅に低減。

- 表面雨量指数(仮称)を導入することで、これまでよりも、災害の発生を見逃すことなく警報・注意報を発表できるようになり、また、警報・注意報が発表されたときに災害が発生しないという状況が減ることが見込まれる。
- これにより、防災機関の体制立ち上げ等を従前以上に的確に支援。

表面雨量指数基準Ⅲと浸水害との関連性

- 1991年から2012年にかけて兵庫県で発生した浸水事例（外水氾濫が発生した事例は除く）に対して、表面雨量指数基準Ⅲ・Ⅱ超過時の災害発生状況（適中率）を比較した。

基準Ⅲ

表面雨量指数基準Ⅲを超過:42市町

浸水害発生
18市町(43%)

浸水害なし
24市町(57%)

基準Ⅱ

表面雨量指数基準Ⅱを超過:225市町

浸水害なし
182市町(81%)

浸水害発生:43市町(19%)

表面雨量指数基準Ⅲは、基準Ⅱに比べて、災害発生の適中率が2倍以上高い基準（災害発生の確度が高い基準）である。

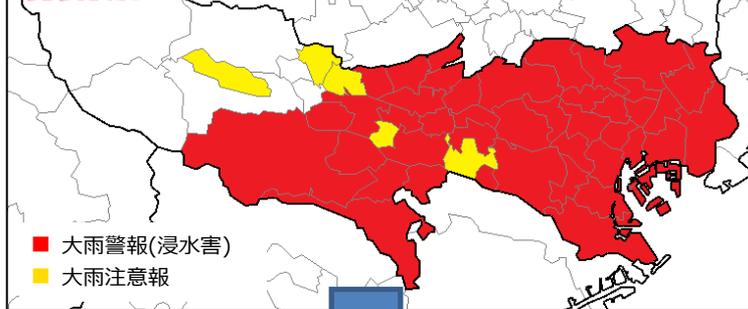
※ 表面雨量指数基準Ⅲへの到達状況は大雨警報（浸水害）の危険度分布で表示。
（到達が予想される場合→薄い紫色、既にも実況で到達した場合→濃い紫色）

大雨警報(浸水害)の改善事例

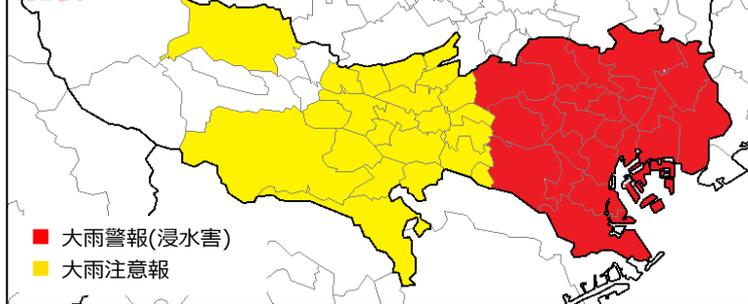
～ 平成26年9月10日大気不安定による大雨（東京都23区東部などで発生した浸水被害）～

- 平成26年9月10日、関東地方は上空の寒気の影響により、大気の状態が非常に不安定となった。このため、東京地方では、23区を中心に雷を伴った猛烈な雨が降り、千代田区大手町では1時間に71.5ミリの非常に激しい雨を観測した。
- 当日の雨量予想(23区:90ミリ、多摩北部・南部:60ミリ、多摩西部:40ミリ)に基づき、表面雨量指数基準による大雨警報(浸水害)の発表シミュレーションを行ったところ、多摩北部・南部で不要な警報の発表を回避できることが分かった。なお、多摩北部・南部では警報対象災害は発生しておらず、武蔵野市で注意報対象災害が発生した。
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布は、浸水害が発生した区市町村との対応が良く、浸水危険度が高まっている地域を絞り込んで表示することができていた。

当日の予想雨量に基づく、大雨警報(浸水害)・大雨注意報の発表状況

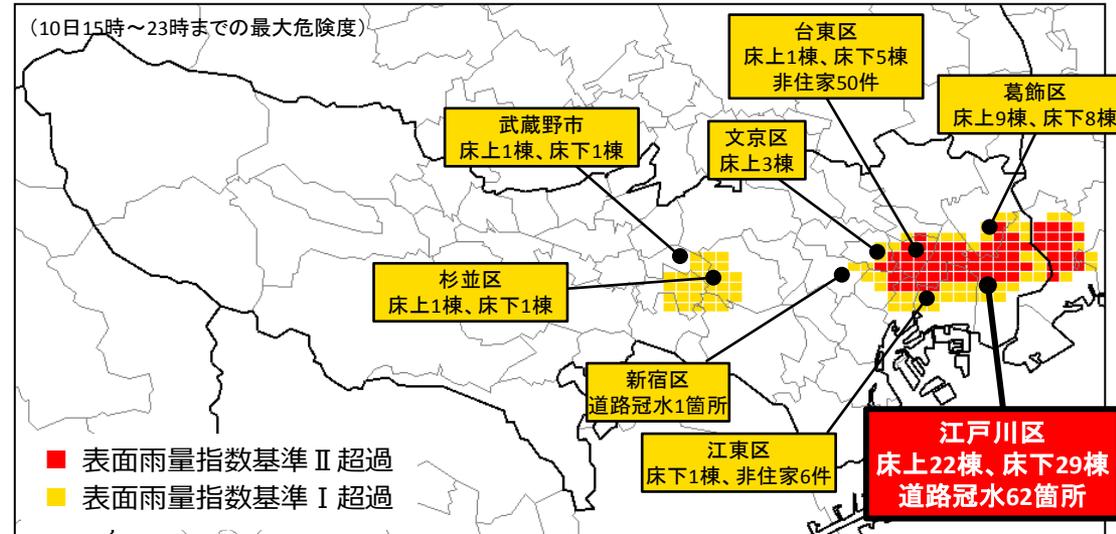


当日の予想雨量に基づく、表面雨量指数基準による発表シミュレーション



大雨警報(浸水害)の危険度分布

(10日15時～23時までの最大危険度)



- 表面雨量指数(仮称)を導入することで、よりの確に警報・注意報を発表。
- 大雨警報(浸水害)の危険度分布では、浸水害発生危険度が高まっている地域を絞り込んで表示。

大雨警報(浸水害)、大雨警報(浸水害)の危険度分布、 水位周知下水道の水位情報の利用イメージ

時間の経過
現象の推移

大雨警報(浸水害)

市町村単位、基準値に達すると予想した場合に発表

大雨警報(浸水害)の危険度分布

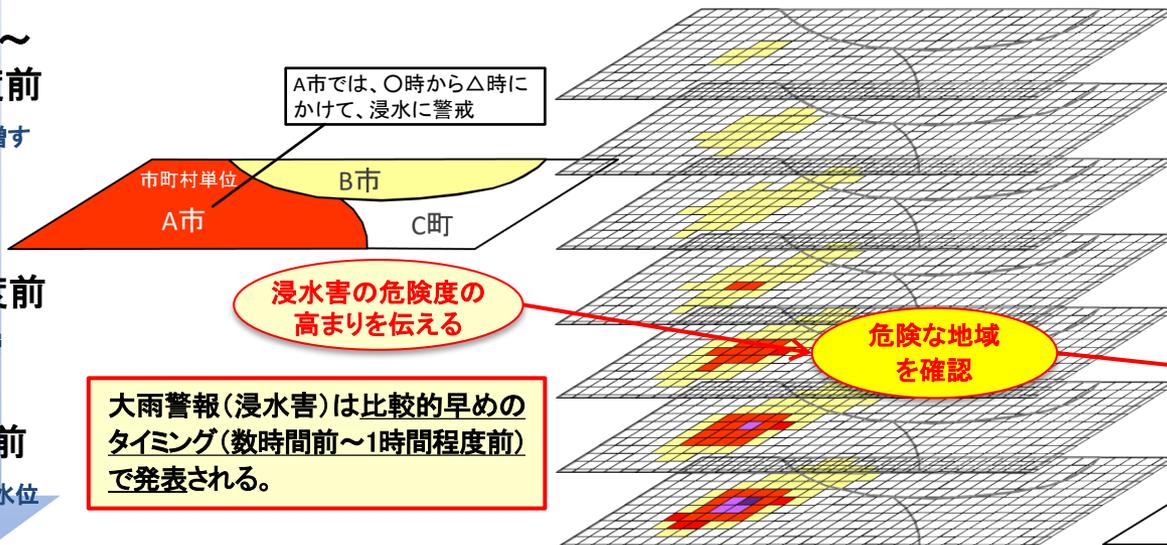
1kmメッシュ単位、10分毎に常時発表

水位周知下水道の水位情報

内水特別警戒水位に達した場合に発表

数時間前～
2時間程度前

大雨が強さを増す



水位周知下水道の水位情報は、特定の排水区域等に対して、切迫した状況下で発表される。

1時間程度前

大雨が一層激しくなる

5分程度前

内水特別警戒水位到達

大雨警報(浸水害)は比較的早めのタイミング(数時間前～1時間程度前)で発表される。

- ・ 内水浸水発生
- ・ 氾濫水の地下空間への侵入

発表主体	気象台	気象台	下水道管理者
対象エリア	市町村	全国の陸上格子	指定された下水道(の排水区域)
情報内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨による浸水害のおそれについて、市町村単位で、警戒を呼びかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1km 四方格子ごとに、浸水危険度を段階的に表示(検討・開発中)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地下街を含む排水区域に存する下水道の内水特別警戒水位の到達情報。
伝達手段	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県やJ-ALERT等を通じて市町村等防災機関に伝達、報道機関などを通じて住民へ周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災情報提供システムや気象庁ホームページで提供予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急速報メールやサイレン等による周知(想定)。
想定される利用方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災関係機関における体制立ち上げ。 ・ 市町村が発令する避難準備・高齢者等避難開始や住民が行う自主避難等の判断。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に浸水害の危険度が高まっている地域の把握。 ・ 市町村が発令する避難準備・高齢者等避難開始の対象地域や住民が行う自主避難等の判断。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内水に係る水防活動。 ・ 地下街管理者による地下街入り口における止水板の設置や避難誘導など。 ・ 地下空間利用者の地上への避難。

洪水警報を改善するための流域雨量指数の精緻化、及び、洪水警報の危険度分布の提供

- ① 洪水警報の改善を図るため、洪水警報発表の基となる指数(流域雨量指数)を精緻化する。
- ② 洪水警報を補足するため、市町村内のどこで洪水警報基準値に達するかを視覚的に確認できるよう、精緻化した流域雨量指数を基準値で判定した結果を危険度分布の予測を示す情報として提供する。

危険度の高まりを伝える情報

洪水注意報

洪水警報

等

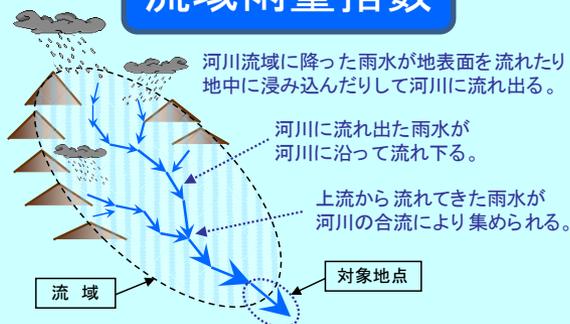
危険度の高まりを伝える

市町村

住民

危険な地域を視覚的に確認

流域雨量指数



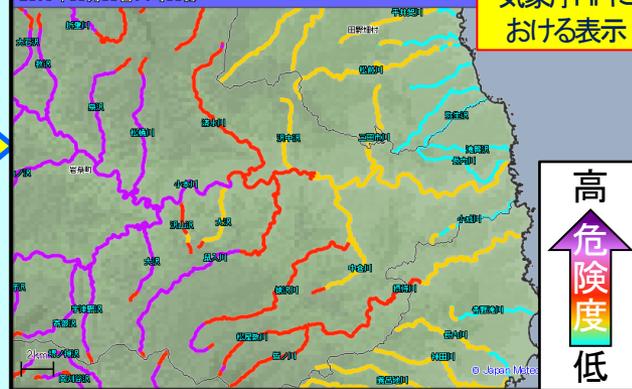
小河川も計算対象河川に含める※1

警報等を補足する情報

洪水警報の危険度分布

2016年08月30日14時50分

気象庁HPIにおける表示



洪水警報等が発表された市町村内において、実際にどこで危険度が高まっているかを確認。

危険な地域を分かりやすく表示

(平成29年度出水期)

基準判定結果を地図上に表示

精度改善(不要な警報の発表回避等)

(平成29年度出水期)

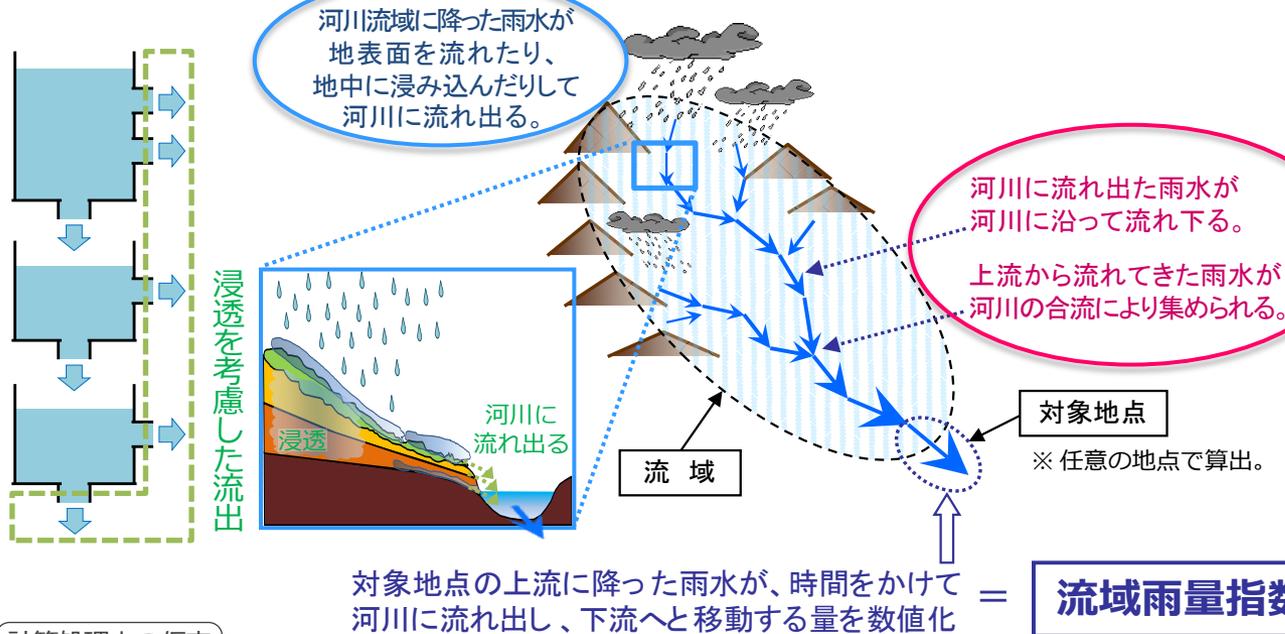
発表基準※2に導入

※2 流域雨量指数の精緻化と対象河川拡大に伴い、現在用いている雨量基準(1時間雨量基準、3時間雨量基準)は廃止する予定。

※1 計算格子を精緻化(5km→1km)し、精度向上を図る。
 流路長15km未満の小河川も計算対象に含め、国土数値情報に登録された全ての中小河川を対象に流域雨量指数を計算する。

流域雨量指数の概要とその精緻化

- 流域雨量指数は、河川の上流域に降った雨水が、地表面や地中を通して河川に流れ出し、河川に沿って流れ下る量を数値化したもの。
- 過去の災害発生時の流域雨量指数の値に基づき、気象庁が発表する洪水警報等の基準値を設定している。
- 平成29年度出水期より、流域雨量指数の計算格子を5kmから1kmに精緻化し、長さ15km未満の小河川も計算対象とする。

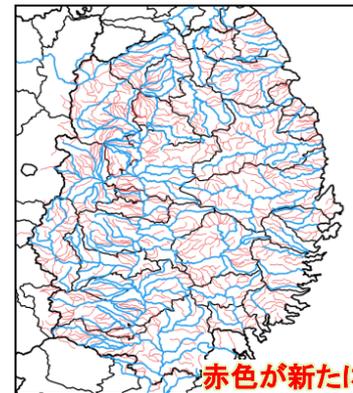


計算処理上の仮定

河川の形状は、実際に即したのではなく逆三角形の形状を仮定している。また、ダムや堰、水門等の人為的な流水の制御、潮位の影響は考慮していない。水位や流量による実況補正の処理は行っていない。本川と支川の合流点付近では、本川の水位が高いときには支川から流れ込みにくくなるが、流域雨量指数はこれを反映しない。

格子間隔	5km	現在
対象河川の条件	国土数値情報に登録されている河川のうち、長さ15km以上の河川	

格子間隔	1km	H29~
対象河川の条件	国土数値情報に登録されている 全ての河川	



赤色が新たに計算対象となる河川(岩手県の例)

流域雨量指数の特徴

- 各地点での中小河川の洪水危険度※の高まりを表す。
- 流域で降った大雨による中小河川の外水氾濫による洪水害発生との相関が雨量よりも高い。

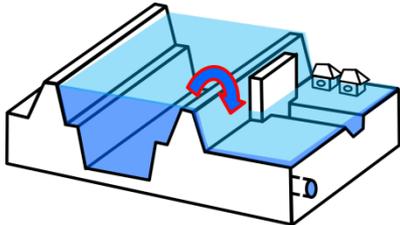
※ 危険度は、洪水警報等の基準値への到達状況に応じて色分け表示される。洪水警報等の基準値は、過去の災害発生時の流域雨量指数を網羅的に調査した上で設定しており、計算処理上の仮定に記載した、指数計算では考慮されていない要素も基準値には一定程度反映されている。

洪水警報・注意報の基準と危険度分布での表示

危険度分布の予測を示す情報で用いられる
洪水警報・注意報の基準

H29
より

流域雨量指数基準



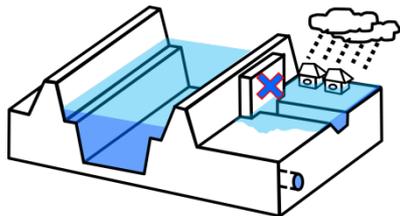
中小河川の外水氾濫による浸水害発生
の危険度の高まりを判定。

下記Ⅰ～Ⅲの基準に従い、
流域雨量指数をメッシュ毎に判定。

Ⅲ	河川流域で発生した外水氾濫に起因する 重大な浸水害を高い確度で捕捉する ように設定。(適中率30～40%程度)	警報 相当
Ⅱ	河川流域で発生した外水氾濫に起因する 重大な浸水害を捕捉するように設定。 (適中率10～20%程度)	
Ⅰ	河川流域で発生した外水氾濫に起因する 浸水害を捕捉するように設定。	注意報 相当

複合基準

(流域雨量指数+表面雨量指数(仮称))



河川の増水に伴って周辺で発生する
内水氾濫による浸水害発生
の危険度の高まりを判定。

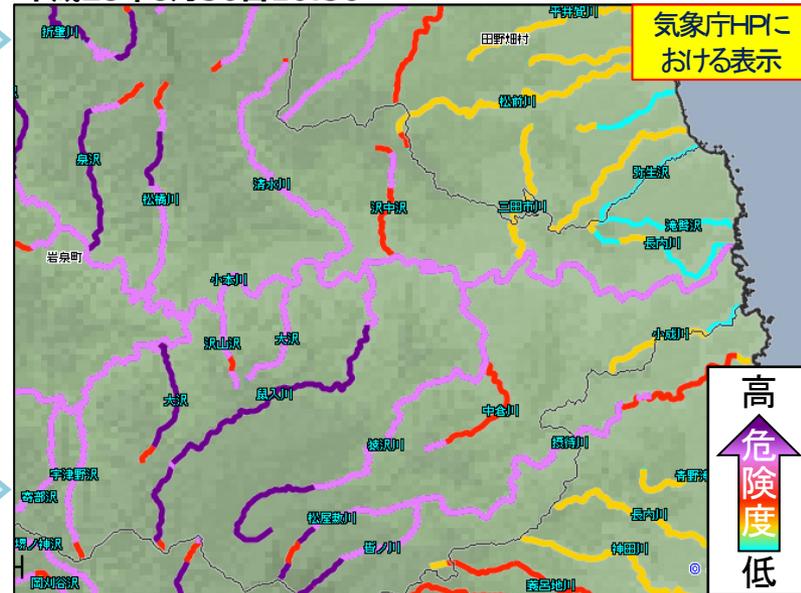
下記Ⅰ～Ⅲの基準に従い、流域雨量指数と
表面雨量指数(仮称)を組み合わせてメッシュ毎に判定。

Ⅲ	設定しない。	警報 相当
Ⅱ	河川流域で発生した内水氾濫に起因する 重大な浸水害を捕捉するように設定。	
Ⅰ	河川流域で発生した内水氾濫に起因する 浸水害を捕捉するように設定。	注意報 相当

過去に発生した浸水害との関係や、それぞれの値に
達する頻度等を調査の上、基準を設定する。

平成28年台風第10号：岩手県岩泉町
洪水警報の危険度分布

平成28年8月30日16:50



気象庁HPに
おける表示

高
危険度
低

現行の流域雨量指数の計算対象でない
15km未満の小河川を対象に設定して
いる「雨量基準」は廃止する予定。

**洪水警報の危険度分布は、中小河川の外水氾濫、及び、河川周辺の内水氾濫
による浸水害発生
の危険度の高まりを表す。**

流域雨量指数の予測値による洪水危険度の見通しの把握 (平成29年度出水期より)

- 流域雨量指数は、河川毎に、上流域に降った雨によって、どれだけ下流の対象地点の洪水危険度が高まるかを把握するための指標で、洪水警報等の発表基準に用いています。
- 河川毎に、これまでに降った雨(解析雨量)とこれから降ると予想される雨(6時間先までの降水短時間予報等)を取り込んで、上流域に降った雨が河川に集まり流れ下る量を計算し、指数化した値を6時間先までの予測値として算出し、洪水警報等の基準値への到達状況に応じて色分けした時系列で表示して提供しています。流域雨量指数を使用する場合には、その値だけではなく基準値との比較によって色分け表示される危険度を参照することが重要です。

■ 防災情報提供システムによる精緻化した流域雨量指数の提供イメージ

2016年8月30日 14時00分

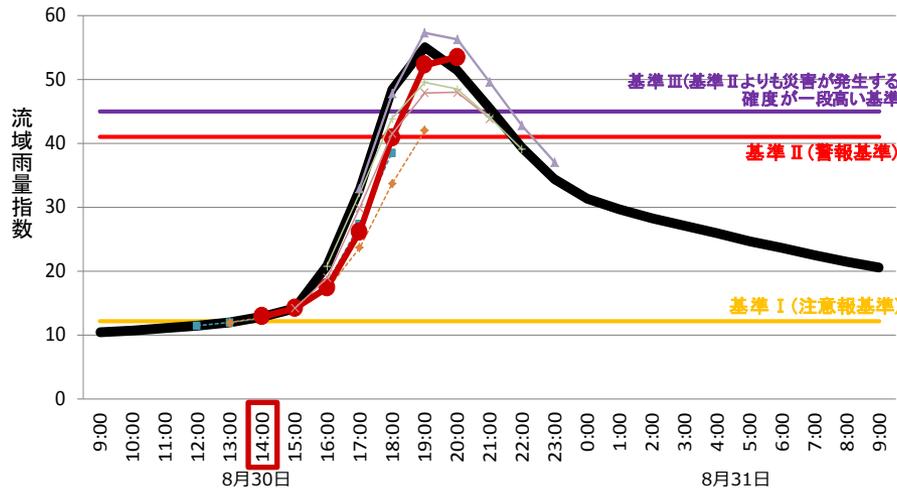
市区町村 岩泉町

過去12時間分の実況値

6時間先までの
予測値

市町村	基準河川	基準Ⅲ 指数基準		基準Ⅱ (警報基準) 複合基準		基準Ⅰ (注意報基準) 複合基準		2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時
		指数	基準	指数	基準	指数	基準	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分	分
岩泉町	安家川	23	16			12	(10)	6	6	6	6	7	7	7	7	7	8	7	8	9	10	12	19	27	29	26
	折壁川	7	6			4		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	4	6	8	8	7
	小本川	45	41			12	(6)	11	11	11	12	12	12	13	13	13	13	11	12	13	14	17	26	41	52	54
	鼠入川	14	11			10		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	5	7	11	14	14	13
	撰待川	12	11			9		3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	7	10	12	12	10

■ 精緻化した流域雨量指数の予測値(平成28年8月30日~31日、小本川)



- 実績値(流域雨量指数)
- 12:00時点の6時間先までの予測値
- 13:00時点の6時間先までの予測値
- 14:00時点の6時間先までの予測値
- 15:00時点の6時間先までの予測値
- 16:00時点の6時間先までの予測値
- 17:00時点の6時間先までの予測値

18時頃の急激な危険度上昇が
昼過ぎには予想できている。

帳票やグラフの指数値は、精緻化した流域雨量指数により平成28年台風第10号の事例を検証したもの。警報等の基準値は、平成29年出水期の実施に向けて調整中のもの。

内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」(平成29年1月改定)

平成28年台風第10号の水害を踏まえて「避難勧告等に関するガイドライン」が改定され、「水位周知河川」及び「その他河川」の洪水について、水位が急上昇する前の早い段階から避難準備・高齢者等避難開始等の発令を可能とするために、「流域雨量指数の予測値」等も用いる判断基準が新たに追記された。

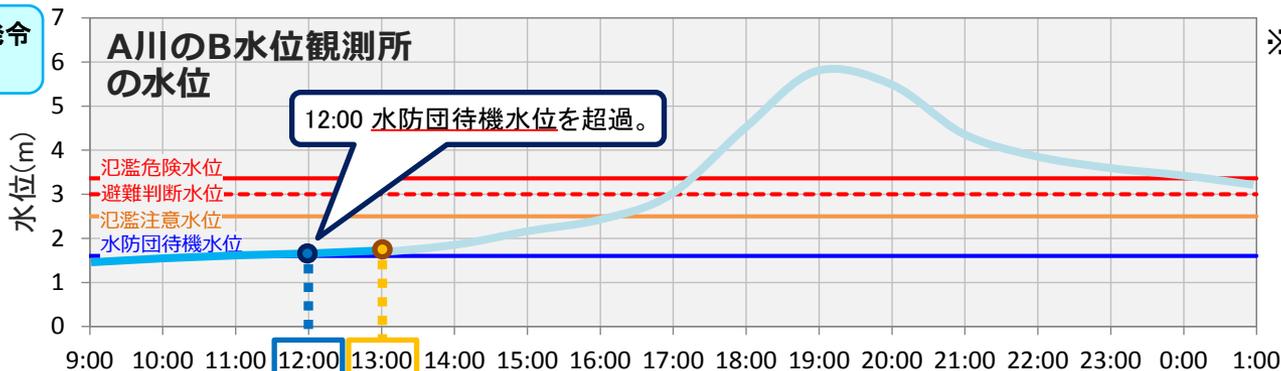
	避難準備・高齢者等避難開始	避難勧告	避難指示(緊急)
洪水予報河川	<ul style="list-style-type: none"> 1: 指定河川洪水予報により、A川のB水位観測所の水位が避難判断水位である〇〇mに到達したと発表され、かつ、水位予測において引き続きの水位上昇が見込まれている場合 2: 指定河川洪水予報の水位予測により、A川のB水位観測所の水位が氾濫危険水位に到達することが予想される場合(急激な水位上昇による氾濫のおそれのある場合) 3: 軽微な漏水・侵食等が発見された場合 4: 避難準備・高齢者等避難開始の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 	<ul style="list-style-type: none"> 1: 指定河川洪水予報により、A川のB水位観測所の水位が氾濫危険水位である〇〇mに到達したと発表された場合(又は当該市町村・区域の危険水位に相当する〇〇mに到達したと確認された場合) 2: 指定河川洪水予報の水位予測により、A川のB水位観測所の水位が堤防天端高(又は背後地盤高)を超えることが予想される場合(急激な水位上昇による氾濫のおそれのある場合) 3: 異常な漏水・侵食等が発見された場合 4: 避難勧告の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 ※4については、対象とする地域状況を勘案し、基準とするか判断すること 	<ul style="list-style-type: none"> 1: 決壊や越水・溢水が発生した場合 2: A川のB水位観測所の水位が、氾濫危険水位である(又は当該市町村・区域の危険水位に相当する)〇〇mを越えた状態で、指定河川洪水予報の水位予測により、堤防天端高(又は背後地盤高)である〇〇mに到達するおそれが高い場合(越水・溢水のおそれのある場合) 3: 異常な漏水・侵食の進行や亀裂・すべり等により決壊のおそれが高まった場合 4: 樋門・水門等の施設の機能障がが発見された場合(発令対象区域を限定する)
水位周知河川	<ul style="list-style-type: none"> 1: A川のB水位観測所の水位が避難判断水位である〇〇mに到達した場合 2: A川のB水位観測所の水位が水防団待機水位(又は氾濫注意水位)を越えた状態で、次の①～③のいずれかにより、急激な水位上昇のおそれがある場合 ①B地点上流の水位観測所の水位が急激に上昇している場合 ②A川の流域雨量指数の予測値が洪水警報基準に到達する場合 ③B地点上流で大量又は強い降雨が見込まれる場合(実況雨量や予測雨量において、累加雨量が〇〇mm以上、または時間雨量が〇〇mm以上となる場合) 3: 軽微な漏水・侵食等が発見された場合 4: 避難準備・高齢者等避難開始の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 ※避難判断水位、氾濫注意水位、水防団待機水位のいずれもが設定されていない場合、1、2の代わりとして、洪水警報の発表に加え、さらに上記の①～③を参考に目安とする基準を設定し、発令することが考えられる ※2については、河川の状況に応じて①～③のうち、適切な方法の一つまたは複数選択すること 	<ul style="list-style-type: none"> 1: A川のB水位観測所の水位が氾濫危険水位(洪水特別警戒水位)である〇〇mに到達した場合 2: A川のB水位観測所の水位が氾濫注意水位(又は避難判断水位)を越えた状態で、次の①～③のいずれかにより、急激な水位上昇のおそれがある場合 ①B地点上流の水位観測所の水位が急激に上昇している場合 ②A川の流域雨量指数の予測値が洪水警報基準を大きく超過する場合 ③B地点上流で大量又は強い降雨が見込まれる場合(実況雨量や予測雨量において、累加雨量が〇〇mm以上、または時間雨量が〇〇mm以上となる場合) 3: 異常な漏水・侵食等が発見された場合 4: 避難勧告の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 ※2については、河川の状況に応じて①～③のうち、適切な方法の一つまたは複数選択すること ※4については、対象とする地域状況を勘案し、基準とするか判断すること 	<ul style="list-style-type: none"> 1: 決壊や越水・溢水が発生した場合 2: A川のB水位観測所の水位が堤防高(又は背後地盤高)である〇〇mに到達するおそれが高い場合(越水・溢水のおそれのある場合) 3: 異常な漏水・侵食の進行や亀裂・すべりの発生等により決壊のおそれが高まった場合 4: 樋門・水門等の施設の機能障がが発見された場合(発令対象区域を限定する)
その他河川等	<ul style="list-style-type: none"> 1: A川のB水位観測所の水位が〇〇m(水防団待機水位等)に到達し、次の①～③のいずれかにより、引き続き水位上昇のおそれがある場合 ①B地点上流の水位観測所の水位が上昇している場合 ②A川の流域雨量指数の予測値が洪水警報基準に到達する場合 ③B地点上流で大量又は強い降雨が見込まれる場合(実況雨量や予測雨量において、累加雨量が〇〇mm以上、または時間雨量が〇〇mm以上となる場合) 2: 軽微な漏水・侵食等が発見された場合 3: 避難準備・高齢者等避難開始の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 ※1については、河川の状況に応じて①～③のうち、適切な方法の一つまたは複数選択すること ※水位を観測していない場合、1の代わりとして、洪水警報の発表に加え、さらに上記の②または③を参考に目安とする基準を設定して発令することが考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1: A川のB水位観測所の水位が〇〇m(氾濫注意水位等)に到達し、次の①～③のいずれかにより、引き続き水位上昇のおそれがある場合 ①B地点上流の水位観測所の水位が上昇している場合 ②A川の流域雨量指数の予測値が洪水警報基準を大きく超過する場合 ③B地点上流で大量又は強い降雨が見込まれる場合(実況雨量や予測雨量において、累加雨量が〇〇mm以上、または時間雨量が〇〇mm以上となる場合) 2: 異常な漏水・侵食等が発見された場合 3: 避難勧告の発令が必要となるような強い降雨を伴う台風等が、夜間から明け方に接近・通過することが予想される場合 ※1については、河川の状況に応じて①～③のうち、適切な方法の一つまたは複数選択すること ※3については、対象とする地域状況を勘案し、基準とするか判断すること ※水位を観測していない場合や基準となる水位の設定ができない場合には、1の水位基準に代わり、上記②または③を参考に目安とする基準を設定し、カメラ画像や水防団からの報告等を活用して発令する。 	<ul style="list-style-type: none"> 1: 決壊や越水・溢水が発生した場合 2: A川のB水位観測所の水位が堤防高(又は背後地盤高)である〇〇mに到達するおそれが高い場合(越水・溢水のおそれのある場合) 3: 異常な漏水・侵食の進行や亀裂・すべりの発生等により決壊のおそれが高まった場合 4: 樋門・水門等の施設の機能障がが発見された場合(発令対象区域を限定する)

水位周知河川の「流域雨量指数の予測値」を用いた判断基準設定例

命に危険を及ぼす氾濫発生のおそれのある〇〇市の水位周知河川A川における
避難準備・高齢者等避難開始の判断基準

A川のB水位観測所の水位が水防団待機水位(又は氾濫注意水位)を越えた状態で、
A川の流域雨量指数の予測値が洪水警報基準に到達する場合

市町村における発令
 判断のイメージ



※ 水位を観測していない河川では、
 水位の代わりに現地情報(カメラ
 画像、水防団からの報告等)を
 用いる。

12:00時点の流域雨量指数の予測値

市町村	基準河川	基準Ⅲ		基準Ⅱ (警報基準)		基準Ⅰ (注意報基準)		0 時 00 分	6時間先までの予測値								
		単独 基準	複合 基準	単独 基準	複合 基準	単独 基準	複合 基準		11	12	13	14	15	16	17	18	
									時	時	時	時	時	時	時	時	時
〇〇市	A川	45.0	41.0			12.1		10.6	11.0	11.4	11.9	12.6	14.0	18.0	27.3	38.9	

流域雨量指数の予測値は
 警報基準(単独基準Ⅱ)
 未滿。

12:00時点では
 発令なし

13:00時点の流域雨量指数の予測値

市町村	基準河川	基準Ⅲ		基準Ⅱ (警報基準)		基準Ⅰ (注意報基準)		1 時 00 分	6時間先までの予測値									
		単独 基準	複合 基準	単独 基準	複合 基準	単独 基準	複合 基準		12	13	14	15	16	17	18	19		
									時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
〇〇市	A川	45.0	41.0			12.1		10.6	11.4	11.9	12.7	14.2	17.1	23.7	33.7	42.0		

流域雨量指数の予測値が
 警報基準(単独基準Ⅱ)に
 到達。

13:00時点で
 「避難準備・高齢
 者等避難開始」
 の発令を判断

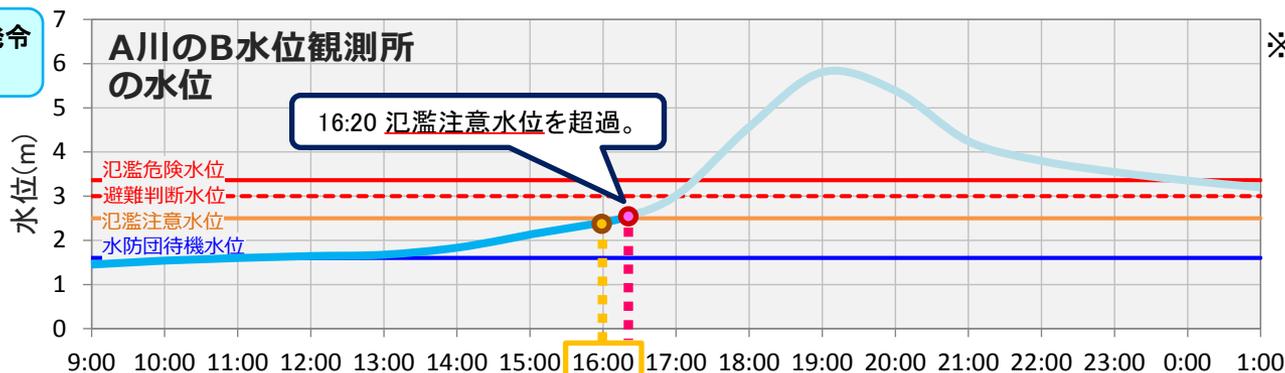
流域雨量指数の予測値を用いることで、実際に水位が急激に上昇するよりも数時間前の
 早いタイミングで避難準備・高齢者等避難開始の発令が可能に。

内閣府「避難勧告等に関するガイドライン」(平成29年1月改定) 水位周知河川の「流域雨量指数の予測値」を用いた判断基準設定例

命に危険を及ぼす氾濫発生のおそれのある〇〇市の水位周知河川A川における避難勧告の判断基準

A川のB水位観測所の水位が氾濫注意水位(又は避難判断水位)を越えた状態で、
A川の流域雨量指数の予測値が洪水警報基準を大きく超過する場合

市町村における発令判断のイメージ



※ 水位を観測していない河川では、水位の代わりに現地情報(カメラ画像、水防団からの報告等)を用いる。

16:00時点の流域雨量指数の予測値

市町村	基準河川	基準Ⅲ		基準Ⅱ (警報基準)		基準Ⅰ (注意報基準)		4時00分	6時間先までの予測値							
		単独基準	単独基準	単独基準	複合基準	単独基準	複合基準		15時00分	16時00分	17時00分	18時00分	19時00分	20時00分	21時00分	22時00分
〇〇市	A川	45.0	41.0			12.1		11.0	14.2	20.8	32.3	43.9	49.6	48.5	44.1	39.1

流域雨量指数の予測値は警報基準(単独基準Ⅱ)を大きく超過しているが、水位が氾濫注意水位未満。

16:00時点では発令なし

※ ここでは、基準Ⅲへの到達をもって「警報基準(単独基準Ⅱ)を大きく超過」とみなしている。

16:20時点の流域雨量指数の予測値

市町村	基準河川	基準Ⅲ		基準Ⅱ (警報基準)		基準Ⅰ (注意報基準)		4時00分	6時間先までの予測値							
		単独基準	単独基準	単独基準	複合基準	単独基準	複合基準		15時00分	16時00分	17時00分	18時00分	19時00分	20時00分	21時00分	22時00分
〇〇市	A川	45.0	41.0			12.1		11.0	14.2	20.8	34.0	44.5	49.6	48.5	44.1	39.1

流域雨量指数の予測値が警報基準(単独基準Ⅱ)を大きく超過し、かつ、水位も氾濫注意水位を超過。

16:20時点で「避難勧告」の発令を判断

流域雨量指数の予測値を用いることで、水位が氾濫危険水位に到達する前であっても、急激な水位上昇のおそれがある場合には早めの避難勧告の発令が可能に。

（流域雨量指数の予測値の活用イメージ）

水位観測や見回りによる現況把握に加え、流域雨量指数の予測値も早い段階から用いて、中小河川の洪水危険度の見通しを把握

→ 水防活動や防災対策への活用

■ 河川の分類と対応する情報の整理

河川の分類	洪水予報河川	水位周知河川	その他河川
避難勧告等の判断を支援する主要な情報	指定河川洪水予報	水位情報（氾濫危険情報など） 洪水警報、及び、 流域雨量指数の予測値	洪水警報、及び、 流域雨量指数の予測値

水位が急激に上昇する水位周知河川やその他河川において、例えば、タイムライン防災の協議会の枠組みの中などで、当該河川の流域雨量指数の予測値も早い段階から用いて、今後の洪水危険度の見通しを共有。

水位観測による現況把握に加え、流域雨量指数の予測値も用いて、今後の洪水危険度の見通しを共有。

見回りによる現況把握に加え、流域雨量指数の予測値も用いて、今後の洪水危険度の見通しを共有。

河川管理者（都道府県）・水防管理者（市町村）・地元気象台

メッシュ情報（危険度分布）の技術を活用した 大雨特別警報の発表対象区域の改善

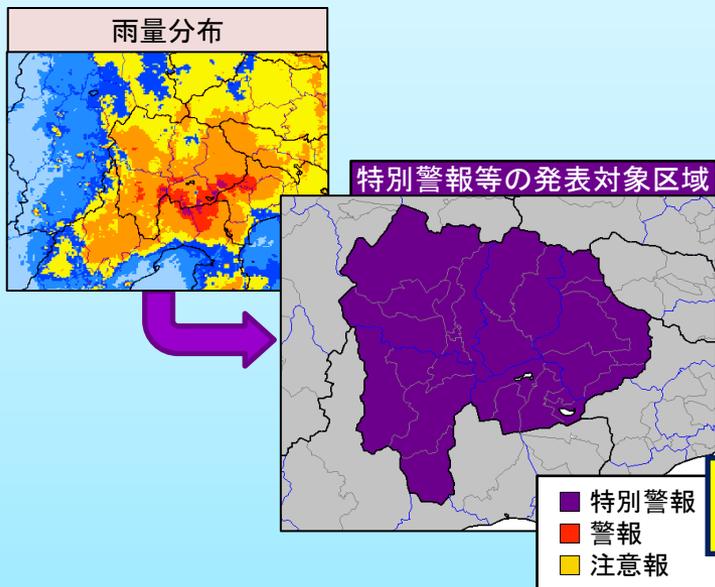
現状 数十年に一度の大雨となる府県予報区内において、大雨警報を全て大雨特別警報に切り替えて発表。

計画 数十年に一度の大雨となる府県予報区内において、大雨警報を大雨特別警報に切り替えて発表。ただし、メッシュ情報(危険度分布)の技術を活用して、危険度が著しく高まっていないと判断できる市町村は除く。

※ 特別警報の発表基準・指標の変更はありません。

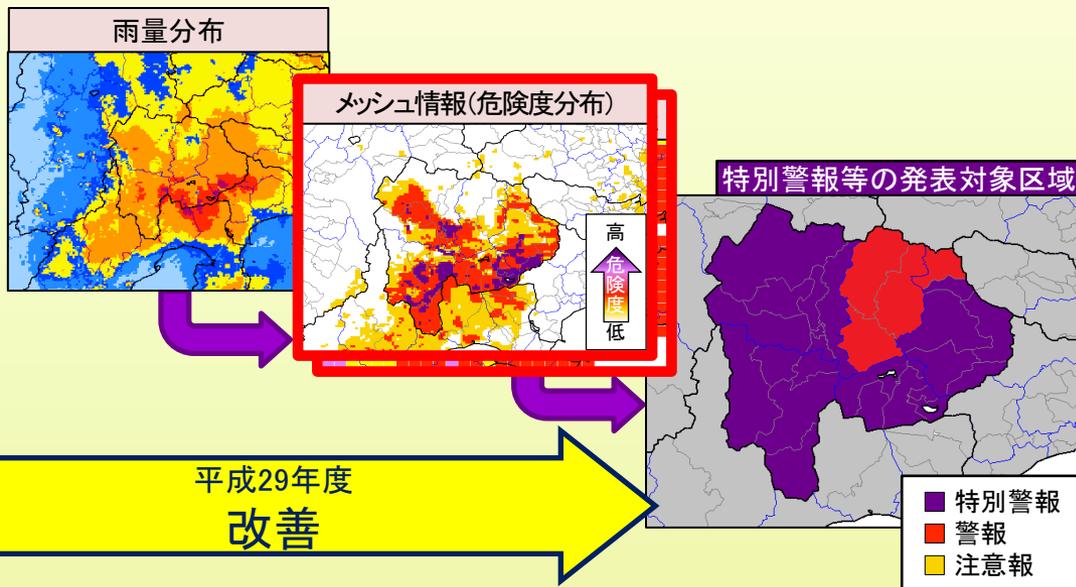
現状

数十年に一度の大雨となる府県予報区内において、大雨警報を全て大雨特別警報に切り替えて発表。



改善後

数十年に一度の大雨となる府県予報区内において、大雨警報を大雨特別警報に切り替えて発表。ただし、災害発生の危険度分布を示すメッシュ情報において、最大危険度のメッシュすら出現していない市町村は除外して大雨特別警報を発表。



平成29年度
改善

危険度が著しく高まっている区域を
より明確にして大雨特別警報を発表

改善後の大雨特別警報発表の流れ

計画 数十年に一度の大雨となる府県予報区内において、大雨警報を大雨特別警報に切り替えて発表。ただし、メッシュ情報(危険度分布)の技術を活用して、危険度が著しく高まってはいないと判断できる市町村は除く。

(1) 数十年に一度の降雨量となる大雨が予想される場合に、大雨特別警報の発表を判断。

※ 大雨特別警報の発表を判断する基準・指標の変更はありません。

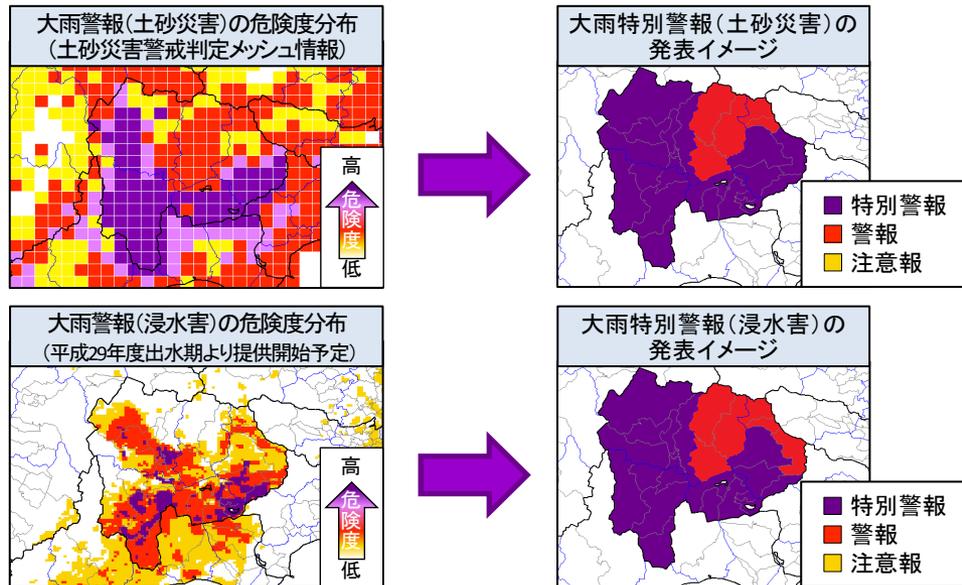
以下①又は②いずれかを満たすと予想され、かつ、更に雨が降り続けると予想される場合に、大雨特別警報の発表を判断します。

① 48時間降水量及び土壌雨量指数において、50年に一度の値以上となった5km格子が、共に府県程度の広がり範囲内で50格子以上出現。

② 3時間降水量及び土壌雨量指数において、50年に一度の値以上となった5km格子が、共に府県程度の広がり範囲内で10格子以上出現（ただし、3時間降水量が150mm以上となった格子のみをカウント対象とする）。

(2) **現状** 大雨警報とならない市町村は発表対象から除外。

計画 さらに、災害発生危険度分布を示すメッシュ情報において、最大危険度のメッシュが出現していない市町村も発表対象から除外して、大雨特別警報を発表。



※ このほか、既に浸水が発生している状況下では、数十年に一度の大雨となりさらに雨が降り続くことによって浸水状況がさらに悪化すると予想されることから、浸水が発生している又は発生していてもおかしくない状況かどうかを踏まえて大雨特別警報(浸水害)を発表します。

- これまで以上に、危険度の高まりに応じた、注意報 → 警報 → 特別警報という段階的な発表が可能となります。
- 災害発生危険度が著しく高まってはいないと判断できる市町村に特別警報は発表しません。
- 特別警報の発表が判断されるタイミングは従前と変わりません。

「警報級の可能性」を含む一連の防災気象情報の 利活用のイメージ

～ 平成27年9月関東・東北豪雨 栃木県鹿沼市で土砂災害が発生 ～

「警報級の可能性」と警報に先立って早い段階から発表される情報の一体的活用

数日先の「警報級の可能性」の[高]や[中]が発表されたときは、心構えを早めに高めて、これから発表される「台風情報」や「予告的な府県気象情報」に留意してください。さらに、翌日までの期間に[高]が発表されたときは、「予告的な府県気象情報」や「警報に切り替える可能性に言及した注意報」が発表される状況です。こうした関連する情報を確認して、通常より一段高い対応などを検討してください。

可能性が高くなくともその発生のおそれを積極的に伝える

警報級の可能性

日付	明日	明後日	(金)	(土)	(日)
雨	—	[中]	[高]	—	—
風	—	[中]	[高]	—	—

日付	明日	明後日	(金)	(土)	(日)
雨	[中]	[高]	—	—	—
風	[中]	[高]	—	—	—

日付	明日	明後日	(金)	(土)	(日)
雨	[高]	—	—	—	—
風	[高]	—	—	—	—

いつもと違う状況に気付いてもらう

市町村



住民

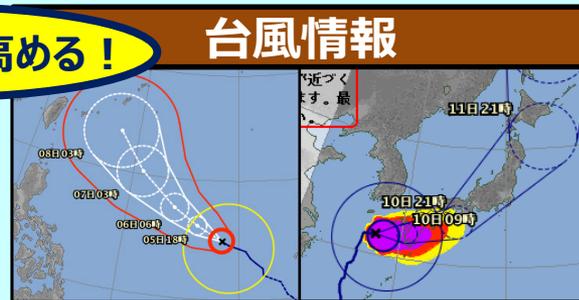
心構えを一段高める!

これから発表される情報に留意する

関連する情報を確認

通常より一段高い対応などの検討材料に

警報に先立って早い段階から発表



予告的な府県気象情報

大雨と雷及び突風に関する〇〇県気象情報 第1号
 (見出し) 低気圧と前線の影響で、〇〇県では〇日から〇日にかけて大雨となるでしょう。土砂災害、河川の増水、はん濫に警戒してください。
 (本文) 梅雨前線上の低気圧が、〇〇にあって東に進んでいます。低気圧や前線に向かって湿った空気が流れ込むため、大気の状態が非常に不安定となる見込みです。南部の山地を中心に総雨量が多くなり、〇日18時までの24時間に予想される雨量は、多い所で200ミリの…

警報に切り替える可能性に言及した注意報

警報・注意報等	雨量(ミリ)	今後の推移 (■警報級 □注意報級)						備考
		7日 18時	7日 21時	8日 0時	8日 3時	8日 6時	8日 9時	
大雨	10	30	60	60	50	30	浸水注意	
(土砂災害)							土砂災害注意	
洪水								
雷							竜巻、ひょう	

台風から変わった低気圧に向かって南から湿った空気が流入したことに加え、栃木県付近に線状の降水帯が停滞し、土砂災害が発生した。



警報級の可能性(可能性が高くなるとも積極的に伝える)

- 5日先までに重大な災害に結びつくような警報級の現象となる可能性がある場合に警報級の可能性を発表。
- 警報級の現象となる可能性が高い場合は[高]、高くはないが可能性が認められる場合は[中]を発表。

大雨3日前

栃木県南部		9/6 17:00発表					9/6 17:00発表			
種別		6日		7日			8日	9日	10日	11日
		明け方まで		朝～夜遅く						
		18-24	0-6	6-12	12-18	18-24				
大雨	警報級の可能性	-		-			-	-	-	-
暴風	警報級の可能性	-		-			-	-	-	-

「警報級の可能性」は、まだ[中]未滿。

翌日

大雨2日前

栃木県南部		9/7 17:00発表					9/7 17:00発表			
種別		7日		8日			9日	10日	11日	12日
		明け方まで		朝～夜遅く						
		18-24	0-6	6-12	12-18	18-24				
大雨	警報級の可能性	-		-			[中]	-	-	-
暴風	警報級の可能性	-		-			-	-	-	-

2日先に大雨の「警報級の可能性」[中]が発表。一方、3日先は、まだ[中]未滿。

翌日

心構えを早めに一段高めておく

大雨前日

栃木県南部		9/8 17:00発表					9/8 17:00発表			
種別		8日		9日			10日	11日	12日	13日
		明け方まで		朝～夜遅く						
		18-24	0-6	6-12	12-18	18-24				
大雨	警報級の可能性	[中]		[高]			[高]	-	-	-
暴風	警報級の可能性	-		-			-	-	-	-

大雨前日になった時点で、翌日と2日先に「警報級の可能性」[高]が発表

翌日

大雨当日朝

栃木県南部		9/9 05:00発表					9/8 17:00発表		
種別		9日		10日			11日	12日	13日
		夕方まで		夜～明け方		朝～夜遅く			
		6-12	12-18	18-24	0-6	6-24			
大雨	警報級の可能性	[中]		[高]			-	-	-
暴風	警報級の可能性	-		-			-	-	-

大雨の当日夜から翌日にかけて、「警報級の可能性」[高]が発表

数日先の「警報級の可能性」→「台風情報」や「気象情報」に留意

気象状況

大雨の数日～約1日前
大雨の可能性が高くなる

大雨の半日～数時間前
雨が降り始める

雨が強さを増す

大雨の数時間～2時間程度前
大雨となる

大雨が一層激しくなる

広い範囲で数十年に一度の大雨

気象庁の情報

警報級の可能性

大雨
注意報

大雨警報

大雨
特別警報

大雨に関する
気象情報

土砂災害警戒情報
記録的短時間大雨情報

・数日先の「警報級の可能性」の[高]や[中]が発表されたときは、心構えを早めに高めて、これから発表される「台風情報」や「予告的な府県気象情報」に留意するようにしてください。

大雨2日前

種別		9/7 17:00発表				9/7 17:00発表			
		7日		8日		9日	10日	11日	12日
		明け方まで	朝～夜遅く	18-24	6-12				
大雨	警報級の可能性	-	-	-	-	[中]	-	-	-
暴風	警報級の可能性	-	-	-	-	-	-	-	-

台風情報を確認

明後日に大雨の「警報級の可能性」[中]

心構えを一段高める!

台風情報



平成27年台風第18号に関する情報 第2号

平成27年9月7日16時30分 気象庁予報部発表

(見出し)

台風第18号と前線の影響で、西日本と東日本の太平洋側を中心に、9日は大雨となるおそれがあります。土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水やはん濫に警戒してください。また、強風、高波、落雷や竜巻などの激しい突風にも注意が必要です。

(本文)

<<以下略>>

翌日までの「警報級の可能性」→「警報・注意報」に留意

気象状況

大雨の数日～
約1日前
大雨の可能性が
高くなる

大雨の
半日～数時間前
雨が降り始める
雨が強さを増す

大雨の数時間
～2時間程度前

大雨となる

大雨が一層
激しくなる

広い範囲で
数十年に一度の
大雨

気象庁の情報

警報級の
可能性

大雨
注意報

大雨警報

大雨
特別警報

大雨に
関する
気象情報

土砂災害警戒情報
記録的短時間大雨情報

- 翌日までの期間に「警報級の可能性」の[高]が発表されたときは、「警報に切り替える可能性に言及した注意報」や「予告的な府県気象情報」が発表される状況です。これらの情報を確認いただき、内閣府のガイドラインを踏まえた対応をご検討ください。

大雨当日朝

		9/9 05:00発表				9/8 17:00発表		
		9日		10日		11日	12日	13日
種別		夕方まで	夜～明け方	朝～夜遅く				
大雨	警報級の可能性	6-12	12-18	18-24	0-6	6-24	-	-
暴風	警報級の可能性	-	-	-	-	-	-	-

警報等の発表
に留意

今夜から明日にかけて
「警報級の可能性」[高]

警報に切り替える可能性に
言及した注意報

平成27年9月9日7時41分 宇都宮地方気象台発表

栃木県の注意警戒事項

栃木県では、9日昼前から土砂災害に警戒してください。

警報の発表が見込まれる
場合にその旨を記述

鹿沼市 **[継続] 大雨, 雷, 洪水注意報**

9日夜のはじめ頃までに大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い

鹿沼市		今後の推移 (■警報級 ■注意報級)									備考・ 関連する現象
発表中の 警報・注意報等の種別		9日					10日				
		6-9	9-12	12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	
大雨	1時間最大雨量 (ミリ)	40	40	50	50	50	40				
	(浸水害)										浸水注意
	(土砂災害)										以後も警報級 土砂災害注意
洪水	(洪水害)										
雷											

夜のはじめ頃から警報級に達すると予想。

土砂災害警戒区域等では明るいうちからの避難準備

「大雨警報」→ 避難準備・高齢者等避難開始を検討

気象状況

大雨の数日～約1日前
大雨の可能性が高くなる

大雨の半日～数時間前
雨が降り始める

雨が強さを増す

大雨の数時間～2時間程度前

大雨となる

大雨が一層激しくなる

広い範囲で数十年に一度の大雨

気象庁の情報

警報級の可能性

大雨
注意報

大雨警報

大雨
特別警報

大雨に関する
気象情報

土砂災害警戒情報
記録的短時間大雨情報

- 「大雨警報(土砂災害)」は、土砂災害発生のおそれに対する警戒をよびかけるときに発表。
- 要支援者の避難に要する時間を考慮して発表基準を設定。避難準備・高齢者等避難開始の発令の検討が必要な状況。

大雨当日昼

		9/9 11:00発表				9/9 11:00発表		
種別		9日		10日		11日	12日	13日
		夕方まで	夜～明け方	朝～夜遅く				
大雨	警報級の可能性	[中]	[高]	[高]		-	-	-
暴風	警報級の可能性	-	-	-		-	-	-

警報等の発表
に留意

夕方までは [中]
夜から明日にかけて [高]

警報

平成27年9月9日13時38分 宇都宮地方気象台発表
栃木県の注意警戒事項
栃木県では、土砂災害や河川の増水に警戒してください。南部では、低い土地の浸水に警戒してください。

発表した警報等の種類

鹿沼市 [発表] 大雨警報 (土砂災害) [継続] 雷, 洪水注意報

鹿沼市		今後の推移 (■警報級 □注意報級)								備考・ 関連する現象
発表中の 警報・注意報等の種別		9日				10日				
		12-15	15-18	18-21	21-24	0-3	3-6	6-9	9-12	12-15
大雨	1時間最大雨量 (ミリ)	50	50	50	50					
	(浸水害)									
	(土砂災害)									以後も注意報級 土砂災害警戒
洪水	(洪水害)									
雷										

予想していたよりも早く、夕方から警報級に達すると予想。
(なお、「警報級の可能性」も、この時間帯を [高] に修正して再発表。)

土砂災害警戒区域等では避難準備・高齢者等避難開始

土砂災害警戒情報 → メッシュ情報(危険度分布)を確認 → 避難勧告を検討

気象状況

大雨の数日～約1日前
大雨の可能性が高くなる

大雨の半日～数時間前
雨が降り始める

雨が強さを増す

大雨の数時間～2時間程度前

大雨となる

大雨が一層激しくなる

広い範囲で数十年に一度の大雨

気象庁の情報

警報級の可能性

大雨
注意報

大雨警報

大雨
特別警報

大雨に関する
気象情報

土砂災害警戒情報
記録的短時間大雨情報

- ・大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度が非常に高まったときに、対象となる市町村を明記して都道府県と気象庁が共同で「土砂災害警戒情報」を発表
- ・命に危険を及ぼす土砂災害が、いつ発生してもおかしくない非常に危険な状況となっており、避難勧告の発令の検討が必要な状況。

土砂災害警戒情報

栃木県土砂災害警戒情報 第3号

平成27年9月9日 16時55分
栃木県 宇都宮地方気象台 共同発表

【警戒対象地域】

足利市 栃木市 * 佐野市 * 鹿沼市 * 日光市

* 印は、新たな警戒対象となった市町村を示します。

【警戒文】

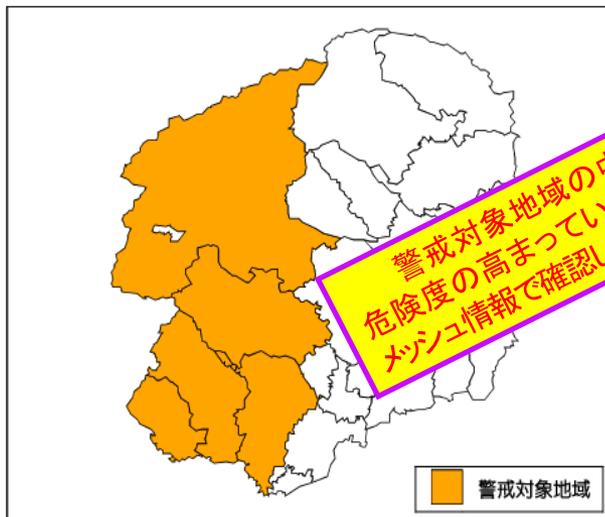
《概況》

降り続く大雨のため、警戒対象地域では土砂災害の危険度が高まっています。

《とるべき措置》

崖の近くなど土砂災害の発生しやすい地区にお住まいの方は、早めの避難を心がけるとともに、市町から発表される避難勧告などの情報に注意してください。

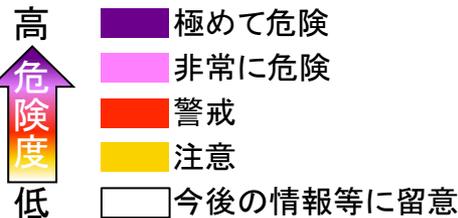
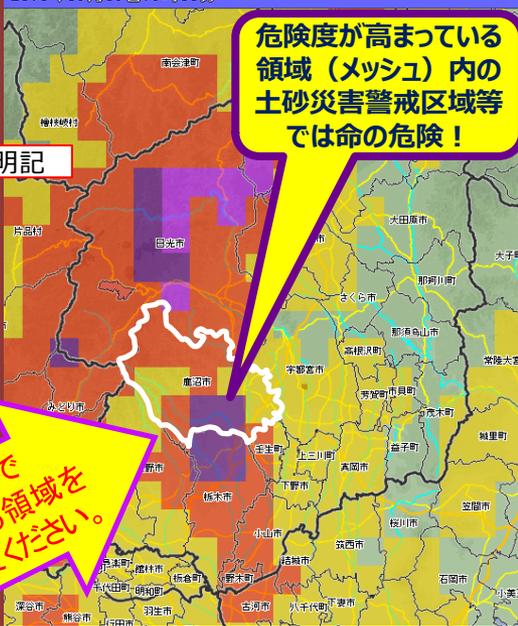
警戒の必要な市町村名を明記



警戒対象地域の中で危険度の高まっている領域をメッシュ情報で確認してください。

土砂災害警戒判定メッシュ情報

2015年09月09日16時55分



大雨特別警報（この段階を待つことなく早めの避難を）

気象状況

大雨の数日～約1日前
大雨の可能性が高くなる

大雨の半日～数時間前
雨が降り始める

雨が強さを増す

大雨の数時間～2時間程度前

大雨となる

大雨が一層激しくなる

広い範囲で数十年に一度の大雨

気象庁の情報

警報級の可能性

大雨注意報

大雨警報

大雨特別警報

大雨に関する気象情報

記録的短時間大雨情報
土砂災害警戒情報

・警報等の発表基準をはるかに超える豪雨等が予想され、重大な災害のおそれが著しく高まっている場合に発表。

特別警報

平成27年9月10日0時20分 宇都宮地方气象台発表

栃木県の注意警戒事項

【特別警報（大雨）】栃木県では、10日昼過ぎまで土砂災害や河川の増水に、10日明け方まで低い土地の浸水に警戒してください。

発表した特別警報等の種類

鹿沼市 【発表】大雨特別警報（土砂災害、浸水害） 【継続】洪水警報 雷注意報

鹿沼市	発表中の警報・注意報等の種別	今後の推移 (■特別警報級 ■警報級 ■注意報級)								備考・関連する現象	
		10日				11日					
		0-3	3-6	6-9	9-12	12-15	15-21	21-24	0-3	3-6	
大雨	1時間最大雨量(ミリ)	80	80	40	40						
	(浸水害)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	浸水警戒
	(土砂災害)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	土砂災害警戒
洪水	(洪水害)	■	■	■	■	■	■	■	■	■	氾濫
雷		■	■	■	■	■	■	■	■	■	竜巻、ひょう

報道発表資料
平成27年9月10日1時25分
気象庁

栃木県に特別警報発表

- ・栃木県に大雨特別警報を発表しました。
- ・これまでに経験したことのないような大雨となっています。
- ・“重大な危険が差し迫った異常事態です。”
- ・土砂崩れや浸水による重大な災害が既に発生しているもおおしくない状況です。
- ・直ちに、地元市町村の避難情報に従う等、適切な行動をとってください。
- ・既に外出が危険な場合には、家の二階などのより安全な場所に避難する等、身を守るため、最善を尽くしてください。
- ・特に、現在夜間であることから、周囲の状況を十分に確認して行動してください
- ・すでに避難を完了している場合も油断しないでください

気象庁本庁の記者会見用資料
(気象庁ホームページでも公表)



記者会見を開いて、気象庁本庁の予報課長が最大級の警戒を呼びかけ。
※各地の気象台でも実施

今後の予想を含めた最新の情報は地元の気象台が発表した気象情報を
(気象庁HP: <https://www.jma.go.jp/kyoukyu/koukyu/>)

大雨特別警報の発表を待つことなく、時間を追って段階的に発表される警報、土砂災害警戒情報や土砂災害警戒判定メッシュ情報などを活用して早めの避難をお願いします。

まとめ

防災気象情報の改善(自らの地域に迫る危険を把握できる仕組み)

気象庁は、危険度の高まり等を伝える「気象警報」等を提供し、それを受けて市町村職員や住民が「危険度を色分けした時系列」や「メッシュ情報（危険度分布）」等によって自らの地域に迫る危険の詳細を把握できる仕組みを構築し、住民の主体的避難を促進することを目指します。

可能性が高くなくともその発生のおそれを積極的に伝える

警報級の可能性

危険度の高まりを伝える

大雨注意報

大雨警報

等

実況を迅速に伝える

記録的短時間
大雨情報

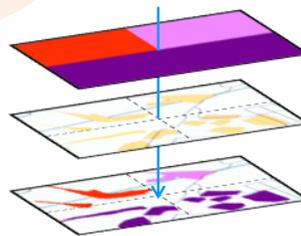
危険度の
高まり等を
伝える

市町村

危険度の高まる
タイミングや
エリアを確認

住民

危険の詳細を把握



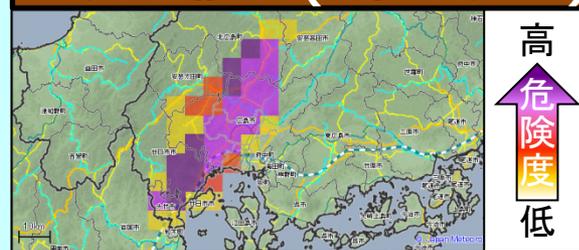
市町村長の避難勧告等の判断を支援
住民の主体的避難を促進

警報等を解説・見える化する

危険度を色分けした時系列

警報・注意報等	今後の推移 (■警報級 □注意報級)										備考
	7日					8日					
	18時	21時	0時	3時	6時	9時	12時	15時	18時		
雨量(ミリ)	10	30	60	60	50	30					
大雨 (浸水害)											浸水注意
(土砂災害)											土砂災害注意
洪水 (洪水害)											
雷											竜巻、ひょう

メッシュ情報 (危険度分布)



等

ご清聴有り難うございました。